

授業科目名	教職論（中等）				
担当教員名	加藤博之				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市立小学校教諭（17年）、校長（8年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全14回）				

授業概要

教育は教員の人間性や専門性などが大きく関わっており、それゆえ「教育は人なり」といわれています。本授業では、教職の意義や教員の役割、教員をとりまく様々な事象を考察し、今日求められている教員の職務内容について理解するとともに、教員としての人間性、資質・能力などの素地を高め、自覚・責任感をもって進路選択ができるようにします。授業では教育関連法規や教育現場の具体的な事象を取上げ、現職教員による講話も交えて進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教師としての基礎的資質に関する知識	生徒の育成を目指す教員として学習指導、服務などに関する知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		学校現場の現状を見据え、教師を取り巻く課題を見出す力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ成績評価を不可とします。
レポートの提出について、指示された期限を厳守しないときは受け付けません。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
定期試験レポート 50%	： 内容の妥当性と論理構成などの観点から、独自のルーブリックに基づいて評価をします。
授業のなかの課題（ミニレポート） 30%	： 教師としての基礎的資質に関して、知識理解と表現力などの観点から独自のルーブリックに基づいて評価をします。
受講状況 20%	： 授業中の学習意欲、受講態度（私語、携帯電話の使用など授業と関係がない行為をした場合は減点対象とします。）提出物などを、チェックリストを活用し、総合的に評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『新しい時代の教職入門』（改訂版）秋田喜代美・佐藤学編著 有斐閣アルマ 2016年
『はじめて学ぶ教職論』広岡義之編著 ミネルヴァ書房 2017年
『教職論ハンドブック』山口健二・高瀬淳編 ミネルヴァ書房 2011年
ほか、適宜授業で紹介いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に周知します。
 場所： 初回授業時に周知します。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>オリエンテーションと教職の意義</p> <p>授業の受け方や提出物等の出し方などを理解するとともに、教職について学ぶことの意義を理解し今後の授業の見通しを把握する。</p>	<p>教職の意義のなかで教師とは何であるか復習し、自身が目指す教師像を述べるができるようにする。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>学校教育の現状と課題</p> <p>教員の定年による大量退職と若手教員の増加、少子化問題による学校数・学級数の減少化、学力問題、いじめ、非行、暴力などについて知る。</p>	<p>教育の諸問題のうち学力について調べてまとめてくる。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>教職についての社会の見方</p> <p>教員の失態は社会で問題になりやすい。言動や身なり、教養、博識など人々の教員の捉えかたについて理解する。</p>	<p>教員の品格について問題となることが予想される事象を調べてくる。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>求められる教員の資質能力(1)－教員としての人間性－（現職教員の講話）</p> <p>教員として授業ができる基礎知識、児童・生徒や保護者などを受ける受容的な態度などを身につけた豊かな人間性について理解する。また、教員は授業が勝負であると言われ、一人一人の児童・生徒に応じた授業ができることは教員にとって必須である。このような趣旨を踏まえ、授業力とは何か、また児童・生徒の育成に間接的にかかわる事務処理能力、交渉能力・対応能力などについて理解する。講話は場合によっては視聴覚教材を活用することもある。</p>	<p>教員の心身の健康と児童・生徒の関係や教師の授業力を高めるための取り組みをまとめる。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>教職員の種類と資格</p> <p>教員の免許について、その種類や職務内容そして取得に必要な履修科目等について理解するとともに教員以外の職員の職務についても知る。</p>	<p>学校教育に携わるうえで必要な公的資格をまとめ、説明できるようにする。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>教員の身分保障</p> <p>教員の出勤時刻や退勤時刻、および問題対応の時間などと労働基準法との関係について知り、勤務条件と実際の勤務および服務について理解する。</p>	<p>教員の服務規程を一覧表にまとめ、説明できるようにする。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>教員研修と向上心（指導体制の充実のための研修）</p> <p>教員の研修はかならず取り組まなければならないことである。研修は義務としての研修と自己向上のための研修に大別でき、それぞれ具体的な事柄を取上げる。研修は教員にとって重要であることを理解する。</p>	<p>研修の種類と必要性をまとめ、その意義を説明することができるようにする。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>教員の力量と学習指導</p> <p>中学校及び高等学校の専門教科など、教科指導の進め方、そして児童・生徒の実態を理解しながら授業を展開することを理解し、教員の力量を向上させることの大切さを理解する。</p>	<p>教科指導と生徒指導の両輪関係を述べるができるようにする。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>校内組織と教員の力量（校長を中心とした校内組織と補佐）</p> <p>校務は学校に在籍する教職員で分担して運営される。校務分掌の内容と学校組織について知り、教務、研究、生活指導をはじめ種々の校務があることと、校務を担ううえでの個人の適性について理解する。</p>	<p>校内の職務としての校務分掌を事前に調べてまとめてくる。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>校務分掌とその実際</p> <p>校務分掌の内容を、学校運営上必要である教務、研究、生徒指導、保健などの校務の実際の様子と課題について理解する。</p>	<p>校務分掌の実際で学んだことから長所と短所をまとめ短所の改善策を考えることができる。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>学校外の職務と教員の関わり</p> <p>地方の教育行政（区役所イベントなど）、警察署、消防署、医師会、青少年指導委員会などと学校の職務との関連について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互協力が重要であることと教員のかかわりについて理解する。</p>	<p>学校と関係機関のつながりを図式的にまとめることができる。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>教職員等と学校関係者等との連携協働（チーム学校運営への対応）</p> <p>地域の学校という意識、地域の連合組織と学校・教員の関連、地域の一人である家庭について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互連携が必要であることを理解する。</p>	<p>学校、家庭、地域の連携の重要性をまとめることができる。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>教員をめぐる事件・事故</p> <p>不審者侵入、交通事故、学校事故などの学校安全管理や飲酒運転、セクハラなど教職員の不祥事や事案が起こる背景について知り、教職員のあるべき姿について理解する。</p>	<p>学校の安全管理（校内外）をまとめ、発表できるようにする。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p>まとめと授業全体の振り返り</p> <p>教員として教育現場に赴く際、一人一人の児童・生徒への深い愛情と理解にもとづき、熱意をもって指導にあたる理想としての教員像を描くことができるようにする。さらに自己教育力を磨き高めるうえで、自己の課題を捉えることができる。</p>	<p>教員を目指す上での課題を明確にできるようにまとめることができる。</p> <p>4時間</p>

授業科目名	教育学（中等）				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（第2回）				

授業概要

本科目は、教育の概念、思想、歴史、制度、内容、方法等について基礎的、体系的な理解を深め、人間にとって教育とは何かを考えることを目標とする。しかし、様々な子どもや家族をめぐる諸問題に当面している現在、教育の意義を単に知識としてのみとらえるのでは不十分である。そこで、この授業では、教育をめぐる現実の問題状況をどのようにとらえ、どのようにして解決に取り組んでいくのかという現実を原点とした営みとして教育をとらえる臨床教育学の視点を重視して教育の意義・目的を考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育思想・歴史的展開の理解	教育に関する様々な思想を理解した上で、その今日的意義を理解できる。 教育の歴史的展開をとらえ、近代教育制度の成立と展開を理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育の意味・目的の理解	子どもの現状を踏まえた上で、教育の意味・目的を理解できる。 家庭教育、社会教育の変遷と現状をとらえ、今後の方向性を考えることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		子どもの現状を踏まえた上で、教育をめぐる課題を発見し、解決の方向性を考えることができる。
2．DP8. 意思疎通		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。

成績評価は次の3つの観点からの総合評価が60%以上を合格とする。

- ①教育の原理的基礎的理解
- ②教育の歴史をふまえた教育の意義・目的の理解
- ③子どもの現状の理解と教育的諸問題への適切な対応

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	40%	： 教育の歴史、思想についての確に理解することができているかを評価の基準とします。
レポート	15%	： 教育思想家を一人取り上げ、その思想の今日的意義についての理解度を評価の基準とします。
授業への参加度	45%	： 各授業回のテーマに関する予習シート（30%）、各授業の最後に提出する小レポート（15%）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
西川信廣・山本智也編	・ 現代社会と教育の構造変容	・ ナカニシヤ出版	・ 2018年

参考文献等

教育思想史学会編 「教育思想事典 増補改訂版」 勁草書房 2017年
 広田照幸 「日本人のしつけは衰退したか 「教育する家族」のゆくえ」 講談社 1999年
 ボルトマン 「人間はどこまで動物かー新しい人間像のために」 岩波書店 1961年
 デューイ 「学校と社会」 岩波書店 1957年
 デューイ 「民主主義と教育」 岩波書店 1975年
 デューイ 「経験と教育」 講談社 2004年
 ルソー 「エミール」(上中下) 岩波書店 1962年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み

場所： 中央館2階個人研究室72

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
 質問は授業の前後にも答えるが、Eメールでも対応する。
 メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
 ただし、件名に「教育学：質問：〇〇〇〇(送信者の氏名)」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	教育をめぐる今日的状況と課題 教育をめぐる今日的な状況について確認した上で、教育をめぐる課題を理解していきます。	授業に先立ち、テキストを通読しておくこと。 4時間
第2回	子どもをめぐる問題と教育 少年非行、ひきこもり、児童虐待など子どもをめぐる問題について、その動向を確認した上で、こうした問題に対して教育の役割を考えていきます。	予習シートの作成(子どもの問題行動について) 4時間
第3回	人間形成における教育の意義 人間の発達について理解していくことを通して、人間にとって教育の意義を考えていきます。	予習シートの作成(生理的早産について) 4時間
第4回	学校の成立と展開 学校の歴史的経過について踏まえ、その社会的な意味について考えていきます。	予習シートの作成(学校の存在意義について) 4時間
第5回	近世以前の日本の教育 古代から近代までの日本において、どのような変遷をたどってきたかについて考えていきます。	予習シートの作成(日本の教育の歴史について) 4時間
第6回	近代以降の日本の教育 近代以降、特に戦後日本の教育について、学習指導要領の変遷を踏まえつつ、考えていきます。	予習シートの作成(日本の学校教育制度の歴史について) 4時間
第7回	西洋教育思想の歴史と展開(ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイを中心に) 西洋教育思想を概観した上で、今日の学校教育、教育改革にどのような意味を持つものなのかを考えていきます。	予習シートの作成(教育における開発主義と注入主義について) 4時間
第8回	教育制度と教育法規 戦後日本の教育法政の体系を踏まえた上で、今日の教育制度をめぐる課題を考えていきます。	予習シートの作成(教育基本法の改正について) 4時間
第9回	学校・学級経営の機能と構造 学校経営・学級経営それぞれの機能と構造について考えていきます。	予習シートの作成(学校経営計画について) 4時間
第10回	子どもの「育ち」を支援するために 児童・生徒一人一人の人格を尊重していくとはどういうことなのかを対人援助の実践理論を通して考えていきます。	予習シートの作成(生徒指導の2つの側面について) 4時間
第11回	教育課程・教育方法の変遷と子どもの学力 教育課程・教育方法の変遷について、戦後の学習指導要領の変遷を中心に理解を深めていきます。	予習シートの作成(学習指導要領の変遷について) 4時間
第12回	地域とともにある学校づくり 学校評議員制度、学校運営協議会の制度化、コミュニティ・スクールといった学校をめぐる状況を理解した上で、コミュニティの課題を考えていきます。	予習シートの作成(コミュニティ・スクールについて) 4時間
第13回	家庭教育支援の方向性 今日の子育て家庭の課題を踏まえた上で、家庭教育支援の歴史及びその方向性を考えていきます。	予習シートの作成(家庭教育支援条例について) 4時間
第14回	教育の機能 一人間関係と教育一 学びにおける他者・対話の存在を考えた上で、教育とは何かを問い直していきます。	予習シートの作成(学びの共同体について) 4時間

授業科目名	教育社会学				
担当教員名	鈴木勇／藪田直子				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目はまず、人間形成の役割を担う教育の在り方について、教育社会学の理論や知見をもとに理解することを目的としている。教育に関する「常識」や「思い込み」を問い直し、教育と社会の在り方について多角的に見つめ直すことをめざす。具体的には、初めに教育社会学の基本的な考え方や主要テーマについて学んだ後、不平等、社会的包摂、国際化といった教育についての現代的課題を検討し、教育者としての幅広い視野と知識を身に着けることをめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

教育の社会学に関する知識

目標：

学んだ知識を用いながら社会的な視点から教育について改めてとらえなおすることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

相手の意見をよく聴いた上で他者の感情に配慮しつつその問題点を指摘し、自己の意見の正当性を筋道を立てて相手に分かりやすく説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。

成績評価の方法・評価の割合

シャトルシート

30%

評価の基準

： 授業内容を的確にまとめ理解できているか、という観点から評価する。

試験

70%

： 授業で扱った教育社会学にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示す事ができているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『中学校学習指導要領』／文部科学省
- 『中学校学習指導要領解説』／文部科学省
- 『教育社会学への招待』／若槻健・西田芳正編／大阪大学出版／2010年

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、適宜映像資料も用意する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 鈴木：金曜日昼休み、藪田：水曜日昼休み
場所： 中央館5階個人研究室

授業計画

第1回 教育における今日の課題（担当：藪田直子）

講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	<p>教育社会学とはどのような特徴を持つ学問領域なのか。また、どのように発展してきたのか。これらのことから教育社会学を学ぶ意義について考えます。加えて教育社会学という学問領域について、現在の教育社会学研究のトレンドと課題を中心に学習し、教育社会学を学習するために必要な基礎知識の習得を目指します。キーワードは、グローバル化、個人化、多様性、実践性。</p>		
第2回	<p>近代の教育行政と学校制度（担当：鈴木勇）</p> <p>近代に入ると国が学校を作り、国民は学校に行くことになった。国が学校制度を整備したのはなぜなのか。また、その結果、日本の教育はどのように変わったのか。こうしたことについて考えます。</p>	<p>講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、教育評価の現状と課題について理解を深める。</p>	4時間
第3回	<p>近代家族と教育（担当：数田直子）</p> <p>教育社会学において議論されてきた「教育」と「家族」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における家族と教育の問題について考察していきます。キーワードは、社会階層、教育戦略、格差</p>	<p>講義の内容を復習し、教育と家族の関係性について理解を深める。</p>	4時間
第4回	<p>学校と地域の連携（担当：鈴木勇）</p> <p>子どもの成長には、学校のみならず地域の影響も大きい。特に近年では学校と地域が協力して子どもの教育にあたることが重要視されている。そのための取り組みや課題について考えます。</p>	<p>講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、地域連携について理解を深める。</p>	4時間
第5回	<p>子どもの生きづらさと学校的作用（担当：鈴木勇）</p> <p>いじめ、不登校、引きこもりなど、今日の子どもたちは様々な生きづらさを抱えている。ただそれは子どもたちだけの問題ではなく、社会の仕組みや不安定さとも深くかかわる社会全体の問題でもある。こうした課題に学校や教育が果たせる役割について考える。</p>	<p>講義の内容を復習し、課題を抱える子供たちに教員として何が出来るかについて理解を深める。</p>	4時間
第6回	<p>若者の「移行」の今日的課題（担当：数田直子）</p> <p>教育社会学において議論されてきた「教育」と「進路」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における子ども・若者の進路選択やキャリア形成の問題について考察していきます。キーワードは、学校から職業への移行、進学格差、国境を超える進路・キャリア形成</p>	<p>講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、進路と教育の関係性について理解を深める。</p>	4時間
第7回	<p>教育課題と教師の実践（担当：数田直子）</p> <p>様々な理由により教育から排除される子どもたちが増加している。そして、教育から排除されることで社会的に不利な状況に陥ることが多い。その現状と課題について考えます。</p> <p>教育社会学において議論されてきた「教員（集団）」と「学校」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における学校教育の諸課題について考察していきます。キーワードは、教師の資質・力量、教員集団、学校づくり。</p>	<p>講義の内容を復習し、教師の役割について理解を深める。</p>	4時間
第8回	<p>ジェンダーと教育（担当：数田直子）</p> <p>学校教育におけるジェンダー問題について学び、男女格差やセクシャル・マイノリティといった事象について深く考えます。キーワードは、隠れたカリキュラム、バックラッシュ、セクシャル・マイノリティ</p>	<p>講義の内容を復習し、教育現場のジェンダーをめぐる問題について理解を深める。</p>	4時間
第9回	<p>特別支援教育とインクルージョン（担当：鈴木勇）</p> <p>支援が必要な子どもたちに等しく教育の機会を与えようとするインクルージョン教育の考え方や取り組みが広がっている。主に日本のインクルージョン教育の歴史と課題について考えます。</p>	<p>講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。</p>	4時間
第10回	<p>学校安全と防災教育：災害・事故のリスク管理（担当：鈴木勇）</p> <p>阪神大震災や東日本大震災の経験から災害時の教員や学校の対応が注目されている。また、学校内での事故や事件も後を絶たない。教員の緊急対応や平時から学校安全のためにしておくべきこと、防災教育等について検討する。</p>	<p>講義の内容を復習し、教員としての緊急時の対応について理解を深める。</p>	4時間
第11回	<p>日本の多文化共生と教育（担当：数田直子）</p> <p>日本における外国人児童生徒の教育問題について、言語、学力・進学、文化葛藤、アイデンティティといった課題を取り上げつつ、グローバル化時代における学校教育のあり方を探ります。キーワードは、ニューカマー外国人、エスニシティ、教育支援</p>	<p>講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、学校教育における多文化共生について理解を深める。</p>	4時間
第12回	<p>諸外国の多文化教育の実践（担当：数田直子）</p> <p>諸外国の多文化教育の実践を概観したうえで、日本から海外に移住する／海外から日本に帰国する子どもが直面する教育問題について、言語、学力・進学、文化葛藤、アイデンティティといった課題を取り上げつつ、グローバル化時代における在外教育施設や学校教育のあり方を探ります。キーワードは、移住の多様化、多文化教育、トランスナショナル</p>	<p>講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、諸外国の教育問題について理解を深める。</p>	4時間
第13回	<p>教育と格差問題（担当：鈴木勇）</p> <p>近年、世界的に社会の格差が広がっており日本も例外ではない。そしてその格差は教育における格差や不平等を生むこととなる。教育の格差や不平等の現状とそれらがいかんして再生産されるのかについて考えます。</p>	<p>講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育格差の問題について理解を深める。</p>	4時間

第14回

国内外の教育施策の動向（担当：鈴木勇）

世界の主要な国々の教育施策の動きと比較しながら日本の教育を検討する。そうすることで日本の教育の特徴と課題について考えます。

講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。

4時間

授業科目名	教育心理学（中等）				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「教育心理学」は心理学の一領域で、教育に関連する諸事象を心理学的に研究し、教育の効果を高めるために役立つ心理的知見と心理的技術を提供しようとする学問である。本講義は、発達、パーソナリティと知能、学習と教育評価、動機づけを取り上げ、一人ひとりの子どもの発達の特性や個に応じた教育的対応や集団の状況に応じた指導・援助についての理解を深め、心理学的知見に基づく教育観を醸成する。本講義は、グループで与えられた課題をレポートし、そのプレゼンテーションを行う形式で進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

教育心理学に関する基本的知識

目標：

教育心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP7. 完遂

与えられたテーマについて、グループで計画的に調査し、発表することができる。

自分の担当した役割に責任があることを自覚し、グループワークを最後まで遂行できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、成績は不可とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内のテスト	10%	: 授業内に実施する各単元の基礎的事項に関するテストにより評価する。
期末レポート（各単元のワークシート含む）	50%	: 各単元で作成するワークシートと与えられた課題についてのレポートによって評価する。
プレゼンテーション	20%	: 与えられた課題に関するプレゼンテーションの内容とパフォーマンスにより評価する。
プレゼンテーションに用いる資料	20%	: プレゼンテーションに用いた資料の内容の正確さと適切さで評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
遠藤司編著	・ 教育心理学	・ 一藝社	・ 2014年

参考文献等

古川聡編著『教育心理学をきわめるチカラ』福村出版 2019
 古谷喜美代ら編著『児童生徒理解のための教育心理学』ナカニシヤ出版 2013
 藤澤文編著『教職のための心理学』ナカニシヤ出版 2013
 桜井茂男編著『たのしく学べる最新教育心理学』図書文化社、2004
 前原武子編著『生徒支援の教育心理学』北大路書房 2002

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。予習としてテキストの次時の範囲を読んでワークシートにまとめて授業に臨むこと、事後に自分で学修した事項をまとめること、確認テストに備えて復習しておくことを求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2時間目

場所： 中央館 5階127

備考・注意事項： 質問は、Eメール（アドレス：yoneda@osaka-seikei.ac.jp）でも対応する。件名に「教心質問：○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 教育心理学とは何かを明らかにしよう 教育心理学の定義、領域について概説し、この講義の進め方等について解説します。	4時間
第2回	発達と教育（1）発達とは何か 発達の定義、規定するもの、基本となる代表的な理論について学びます。	4時間
第3回	発達と教育（2）発達の諸相 発達段階と各段階の特徴について学びます。	4時間
第4回	学習の理論 学習の定義、基本となる代表的な学習理論の概観、記憶について学びます。	4時間
第5回	教授と学習 代表的な教授理論を概観します。	4時間
第6回	動機づけの理論 動機づけ、原因帰属、自信と無気力について学びます。	4時間
第7回	知能と学力 定義、代表的な理論、測定法、知能と学力の関係について学びます。	4時間
第8回	中間まとめ 前半の学びを振り返り、深めます。	4時間
第9回	教育の評価 子どもを生かす教育評価を概観します。	4時間
第10回	授業の実践と研究 心理学を生かした授業実践について学びます。	4時間
第11回	学級集団 心理学を生かした学級集団づくりについて学びます。	4時間
第12回	パーソナリティの問題と生徒理解 定義、代表的な理論、社会性や道徳性に関する理論を概観します。	4時間
第13回	障害のある子どもへの支援 支援を要する子どもへの支援のあり方を学びます。	4時間
第14回	総括 本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間

本科目を受講して、得たものと今後の学修のあり方について考え
ます。

713

授業科目名	特別支援教育【2018入学生】				
担当教員名	瀧本一夫				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

713

授業科目名	特別支援教育概論（中等）【2019入学生～】				
担当教員名	瀧本一夫				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業科目名	教育課程論（中等）				
担当教員名	山本はるか				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育課程とは、生徒の学習経験を組織的に編成するために用意された教育計画である。本講義では、中学校・高等学校の学習指導要領の基本構造や特色について、学習指導要領の歴史的展開や社会状況の変化、背景にある教育思想や学力観・評価観を踏まえて考察していく。また、特色ある学校づくりと教育課程の開発について、具体例を踏まえながら、教育課程編成の現状と課題について考察を深め、課題を克服するための編成案を作成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 教育課程に関する基礎的な考え方・知識
教育課程を分析する力

目標：

- 教育課程の基礎的な考え方や知識を修得することができる。
教育課程に関する基礎的な考え方や知識を活用して、実際の教育課程の成果と課題を分析することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力

- 教育課程編成に際して、教員が直面する課題を見出すことができる。
発見した課題の解決に向けて、教育課程編成案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

小テスト

50%

評価の基準

： 教育課程に関する基礎的な考え方や知識を修得できているかどうかを判断する。

定期試験（レポート）

50%

： 教育課程に関する基礎的な考え方や知識を活用して、実際の教育課程を分析し、現状と課題について考察し、課題を克服するための編成案を作成することができるかどうかを判断する。

使用教科書

指定する

著者

文部科学省

タイトル

・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編

出版社

・ 東山書房

出版年

・ 2018年

参考文献等

田中耕治編著『よくわかる教育課程 第2版』ミネルヴァ書房、2018年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 3限

場所： 研究室（本館5F）

授業計画			授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	オリエンテーション／現代の教育課程をめぐる課題 教育課程の定義と、現代の教育課程をめぐる課題を知る。	予習シートの作成：学習指導要領、カリキュラム・マネジメント	4時間
第2回	教育課程論の範囲、カリキュラム・マネジメント これまで提案されてきた学習指導要領の変遷を概観する。カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえて、教育課程を捉え直すことの意義を知る。	予習シートの作成：経験主義、系統主義	4時間
第3回	学習指導要領の変遷（1）経験カリキュラムと学問中心カリキュラム 1940～1960年代の教育課程の特徴を知る。	予習シートの作成：生きる力、確かな学力	4時間
第4回	学習指導要領の変遷（2）生きる力と確かな学力 1970～1990年代の教育課程の特徴を知る。	予習シートの作成：PISA、資質・能力	4時間
第5回	学習指導要領の変遷（3）現代に求められる学力 2000年代以降の教育課程の特徴を知る。	予習シートの作成：総合的な学習の時間	4時間
第6回	カリキュラム構成（1）総合学習 総合的な学習の時間を事例として、教科外の視点から、カリキュラムの編成の在り方を学習する。	予習シートの作成：道徳	4時間
第7回	カリキュラム構成（2）道徳の教科化 道徳を事例として、教科と教科外の区分や、教科として成立させることの意義と課題を知る。	予習シートの作成：教育目標、教育評価	4時間
第8回	カリキュラム開発（1）目標論・評価論とカリキュラム 目標と評価の設定が、カリキュラム開発に与える影響を知る。	予習シートの作成：教材、発問	4時間
第9回	カリキュラム開発（2）教材論・発問論とカリキュラム 授業づくりの視点から、授業とカリキュラムのつながりを知る。	予習シートの作成：素朴概念	4時間
第10回	カリキュラム評価（1）子どもの学びのメカニズムとカリキュラム、素朴概念 子どもの視点を踏まえてカリキュラムを開発することの意義を知る。	予習シートの作成：試験、相対評価、絶対評価	4時間
第11回	カリキュラム評価（2）教育評価の変遷と3つの機能 教育評価の考え方の変遷を知る。	予習シートの作成：パフォーマンス評価、ルーブリック	4時間
第12回	カリキュラム評価（3）新しい評価法、パフォーマンス評価、ルーブリック 新しい教育評価の方法を知る。	予習シートの作成：外国語活動、接続	4時間
第13回	新しい教育課程の課題（1）英語の教科化をめぐる 小学校段階における英語の教科化を題材として、教育課程の接続に関わる成果を課題を知る。	予習シートの作成：夜間中学校	4時間
第14回	新しい教育課程の課題（2）夜間中学校の取り組み 夜間中学校における教師の取り組みを知ることで、学習者自身の経験を相対化する。	定期試験に向けて、これまでの学習を振り返る	4時間

授業科目名	美術科指導法 I				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

美術教育は、学校のみならず美術館などの文化施設や個人の絵画教室等幅広く実施されているものです。本科目では、このような様々な機会で開催されている美術教育のなかでも、学校教育で行われている美術科教育を取り上げ、「美術科教育の教科性」、「子どもの発達と造形表現の関係」、「美術教育史」、「学習指導要領」等について学びます。また、教育全体と美術教育の関係性についても検討します。授業内発表では、情報機器を用いパワーポイント等を使用したプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

美術教育に関する知識

目標：

日本の美術教育史、心身の発達と造形表現の関係等を学び、美術科教育についての基礎的知識を習得することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

現代の教育における諸課題を踏まえ、美術科教育が担う役割について考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目の到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講状況、授業への参加度	30%	： 授業への積極的な参加及び、授業内容に関して内容を理解し的確に回答することができる。
授業内発表やディスカッション	20%	： 各自が収集した美術・教育に関する記事やニュースなどから、関心ある事項を取り上げ問題を提示すると同時に、他者の発表に関して積極的に発言し議論することができる。
資料収集	20%	： 授業内容を理解し、それに適した内容の資料を整理した授業ファイルを完成させることができる。
試験（レポート提出）	30%	： 現代の教育における諸課題を踏まえ、美術科教育が担う役割について考察しレポートを作成することができる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
京都市立芸術大学美術教育研究会	美術資料 大阪府版	秀学社	2021年

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。

- 『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆眞、福本謙一、茂木一司 建帛社
 『美術による人間形成』 V. ローエンフェルド著/竹内清・堀内敏・武井勝共訳 黎明書房
 『造形芸術の基礎』ヨハネス・イッテン著/手塚又四郎訳 美術出版社
 『中学校学習指導要領解説 美術編』 文部科学省
 『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4時間目
 場所： 南館2階情報デザイン研究室

授業計画

		授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	美術科教育について 授業の目的、授業計画、内容紹介、授業評価について 美術科教育の導入として、教育の定義を示すとともに、各学生がめざす教育観について検討する。 また、今後の授業で使用する「授業ノート」の作成について、文献や新聞等を活用した資料収集の方法等具体的な説明を行う。 本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明する。	3時間
第2回	美術科教育の教科性 「美術の教育」と「美術教育」の違いを理解するとともに、「美術科教育」の特性について学ぶ。	3時間
第3回	心身の発達と造形表現の発達段階 ①幼児期 「発達とは」「発達段階とは」を把握し、人間の心身の発達と主に描画方法の発達を追い、学ぶ年齢に応じた教育のあり方を探る。「描画期」から「命名的表現」の特徴を学ぶ。	4時間
第4回	心身の発達と造形表現の発達段階 ②児童期Ⅰ 児童期前半の発達と描画表現の特徴「前図式表現」「図式的表現」を学ぶ。	4時間
第5回	心身の発達と造形表現の発達段階 ③児童期Ⅱ 児童期後半の発達と描画表現の特徴「前写実的表現」「擬似写実的表現」を学ぶ。	4時間
第6回	心身の発達と造形表現の発達段階 ④青年期 決定の時期である青年期の発達と描画表現の特徴「写実的表現」「芸術的表現」を学ぶ。	4時間
第7回	日本の美術科教育の歴史 ①幕末から明治時代 日本における美術教育、美術科教育の歴史を幕末から平成まで順を追って概観する。また、日本の美術教育に大きな影響を与えた海外の美術教育も含めて学ぶ。 ①では、幕末から明治期にかけて「鉛筆画時代」「毛筆画時代」「教育的図画時代」について学ぶ。	4時間
第8回	日本の美術科教育の歴史 ②大正時代から昭和初期時代 「自由画時代」「脱自由画・構成教育時代」の美術教育を学ぶ。	5時間
第9回	日本の美術科教育の歴史 ③昭和10年代から20年代中期 「戦時下図画・工作時代」「占領下生活主義・実用主義美術教育時代」について学ぶ。	5時間
第10回	日本の美術科教育の歴史 ④昭和20年代後期から40年代 「創造・認識・造形主義時代」「系統的造形主義美術教育時代」について学ぶ。	4時間
第11回	日本の美術科教育の歴史 ⑤昭和50年代から平成にかけて 「感性主義美術教育時代」「ゆとり教育」について学ぶ。	4時間
第12回	学習指導要領の変遷 ①昭和20年代から40年代 小学校「図画工作」中学校・高等学校「美術」の学習指導要領の変遷を追い、その特徴や教育目標、内容について学ぶ。	4時間
第13回	学習指導要領の変遷 ②昭和50年代から平成20年代 小学校「図画工作」中学校・高等学校「美術」の学習指導要領の変遷を追い、その特徴や教育目標、内容について学ぶ。	4時間

第14回

まとめ 教育全般、美術教育について考える

これまでのノートの内容や「授業ノート」、収集した教育関連資料を踏まえて各人が問題提議を行い、課題、問題点を考える。現代が抱える教育上の諸問題に対して、美術科教育が担う役割は何か考える。

授業内容を振り返り、現代における教育の課題、問題を踏まえて個人の考えをまとめる。「授業ノート」のまとめとレポート作成

5時間

授業科目名	美術科指導法Ⅱ				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

本科目では、中学校・高等学校美術科授業を実施するための基本的事項を学ぶことを主な目的とします。また、中学校・高等学校芸術科(美術)の学習指導要領を精読するとともに、達成するための具体的な方法について検討します。さらに、美術科指導法Ⅲ・Ⅳと連動し、当該授業において作成予定の授業プランについても予備的に考察し、スムーズに授業プランを作成することができるような基本的な知識を獲得することを目的としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	美術科の教育方法についての知識	中学校・高等学校美術科教育の変遷を踏まえ、その成果と問題点を読み解くことができる
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	中学校・高等学校美術科学習指導要領の内容を理解する	内容を知るとともに、その背景・必然性についても理解することができる
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		中学校・高等学校美術科教育の課題について検討し、改善策を提案することができる
2．DP5.計画・立案力		授業プラン作成のために、計画的に取り組むことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目の到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
 S：設定した目標以上の到達状況である
 A：十分満足できる
 B：概ね満足できる
 C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

評価の方法	評価の割合	評価の基準
受講状況、授業への参加度	30%	： 授業への積極的な参加及び、授業内容に関して内容を理解し的確に回答することができる。
プレゼンテーション	30%	： 講義内容と授業で扱うテキストや文献資料を理解し、独自の視点で分析し表現することができる。
授業づくりのためのアイデア	20%	： 創造的な視点で授業づくりのアイデアを考えることができる
試験（レポート提出）	20%	： レポート内容に妥当性があり、論理的に構成力ができる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
 『美術資料 大阪府』京都市立芸術大学美術教育研究会編集 修学社
 『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆真、福本謙一、茂木一司 建帛社
 『中学校学習指導要領解説 美術編』文部科学省
 『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4時間目
 場所： 南館2階情報デザイン研究室

授業計画

		授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	美術教育について、美術教師の仕事の面白さについて 美術教育の意義や役割を美術教師という仕事の面白さという観点から考える。受講生の今までの美的経験や、現代社会、今日のアートシーンなどの幅広い視野を持って、討議を通じて考えます。	復習：美術教育の意義について自分の意見をまとめる。 4時間
第2回	美術教育の現代—その課題と状況 現代日本の美術教育の課題を考える。そのために時代認識と、今日のアートの状況を把握し、美術教育の課題を討議を交えて主体的に探ります。	復習：美術教育の課題についてまとめる。 4時間
第3回	西洋と日本の出会いが生む美術教育—鉛筆画と毛筆 幕末から明治初期の教育制度形成期における美術と教育の姿は、グローバル社会のなかで進むべき道を模索する現代日本の課題と大きく重なります。「西洋画」がどのような形で美術教育の制度に組み込まれたかを理解することは、近代日本の文化の本質を理解することにつながります。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：西洋画と日本の文化についてレポートを書く。 4時間
第4回	岡倉天心の射程—グローバリズムと茶の湯 岡倉天心が構想した「日本美術」と「美術教育」は、現代のグローバリズムのなかで美術・教育を考えるために大きな示唆を与える。西洋と東洋との差異を超える普遍的な美術・教育のビジョンについて検討します。	予習：岡倉天心とその活動について調べる。 4時間
第5回	『新定画帖』と大正自由画運動 明治末期に『新定画帖』（教科書）は「教育的美術」という系統的な美術教育のビジョンを示す。しかしそれは大正自由画運動という近代的で大衆的な教育運動によって、大きな意味を持ち得なかった。その歴史的経緯から、「美術教育の近代」を探ります。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：大正時代の美術教育運動の成果と問題点についてまとめる。 4時間
第6回	大正自由画運動の展開とそれをめぐる論議 日本における最初の近代的美術教育運動である大正自由画運動は大きな大衆的支持を得た。しかし多くの論議を呼び、賛否の論が出された。それらを通じて、現代の美術教育の基本的な理念と方法を検証します。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：大正時代の美術教育運動が現代に与える示唆についてレポートを書く。 4時間
第7回	工作・工芸・デザイン教育の近代 明治以降、戦前まで工作はそのほとんどを「手工」という教科名で行われた。「手工」教育の歴史を追うことで、工業国家が求めた「手」の教育の姿を理解する。それは西欧における19世紀末の美術工芸運動やバウハウスなどでのデザイン運動での教育の姿と比較することで、より明瞭となることを理解します。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：デザイン教育の黎明期に起こった運動についてまとめる。 4時間
第8回	戦後美術教育の展開と昭和22-26年学習指導要領期の美術教育 戦後美術教育の展開を概観した上で、戦後直後に法的拘束性を持たない「試案」として出された学習指導要領の内容を理解します。戦後リベラリズムと生活単元学習の受容のなかでの美術教育は、現在の規制緩和路線とどのように似て、どのように異なるのかを理解します。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の意味について考える。 4時間
第9回	昭和33-44年学習指導要領と民間美術教育運動 米国における「教育の現代化」政策の影響下で「系統化」を進めた昭和33-44年学習指導要領。その意味波動時代に実質的に美術教育を推進した民間美術教育運動の3潮流のなかで考える必要があります。近代美術教育の制度と理念をめぐってその姿を探ります。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。 4時間
第10回	昭和52年—平成元年学習指導要領とポスト近代社会 高度成長期の終焉と共に「ゆとり」教育へと振れはじめる学習指導要領。その背景としてのポスト近代社会とそれが要請する美術教育のビジョンを、アメリカと日本を比較しつつ考えます。他方、1970年後半以降のアートの変容も視野に入れて学びます。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。 4時間
第11回	平成10-22年学習指導要領と新しい学力・能力観	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。 4時間

第12回	<p>1990年代以降に顕在化する新自由主義的政策のなかで、美術教育はどのように対応すべきなのか。ポスト近代における教育と美術、そして文化の大きな変動を背景として「学校美術教育」の今後を考えます。</p> <p>現行学習指導要領の課題と展望</p> <p>以下の諸点から現行の学習指導要領の問題点と課題について考えます。 ①共通事項、②鑑賞教育、③小中連携</p>	<p>予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：現行学習指導要領の目的と内容についてプリントにまとめる。</p>	4時間
第13回	<p>明日の美術教育を構想する（1）—美術教育の学力論と現代アート論から</p> <p>1990年代以降に現れた新しい学力観と能力観を批判的に理解し、美術教育の進むべき道を探ります。同時に美術教育のカリキュラムモデルを示しながら、その具体的な検討を行います。</p>	<p>予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：現代の美術教育の問題点についてまとめる。</p>	4時間
第14回	<p>明日の美術教育を構想する（2）—学生からの提言（構想、発表、まとめ）</p> <p>今までの授業内容を踏まえ、「明日の美術教育を切り開く授業プラン」について小グループで構想したものを発表し、受講生全体で共有します。</p>	プレゼンテーション準備	4時間

授業科目名	美術科指導法Ⅲ				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

本授業では教育実習に向けた準備として、中学校・高等学校において美術の授業を行うために必要な知識と技術を学びます。主に学習指導案の重要性について項目ごとに理解を深め、生徒たちが置かれた状況に即した題材開発と学習指導案の作成について詳細にシミュレーションを行います。さらに中学校・高等学校美術科学習指導要領を精読することを通じて、学校教育で求められている教師の役割について理解し学生の自覚を促します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 学習指導案の書き方
学習指導要領の読解力

目標：

- 題材設定とその理由、指導目標、評価基準について、正しく書くことができる。
学習指導要領に書かれてある教科の目的および内容、指導計画等を理解できる。

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP6. 行動・実践

- 授業の題材を考え、指導案を作成する力を養成する。
自分の考えをわかりやすく発表し、授業を受ける者が理解しやすい指導案を書く力を養う。

学外連携学習

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目の到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

学習指導案の作成

40%

試験（学習指導要領の理解）

40%

プレゼンテーション

20%

評価の基準

： 学習指導案を2案作成し、その各項目が教育実習の現場で実情に沿ったものであるかどうかを基準に評価します。

： 学習指導要領の全文を熟読して理解できているかどうか、レポートによって評価します。

： 教育実習の準備として、わかりやすい説明ができるかどうかを短いスピーチによって評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書については、美術科指導法Ⅱで購入したものを引き続き使用します。

以下の参考文献他授業中にも適宜紹介します。
 「美術資料 大阪府版」京都市立芸術大学美術教育研究会編集 修学社
 『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆真、福本謙一、茂木一司 建帛社
 『中学校学習指導要領解説 美術編』 文部科学省
 『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4時間目
 場所： 南館2階情報デザイン研究室

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の目的、授業計画、内容紹介、授業評価について 教育実習に向けての実践的準備を中心に、授業形式と授業内容の紹介をします。	予習：教職カルテの準備。復習：授業全体の計画を確認して準備。 4時間
第2回	教職カルテの記入について 今までの履修状況の確認をします。教職課程の単位履修漏れを防ぐとともに、これから始まる各種の実習に臨む準備をします。	復習：教職カルテの記入。 4時間
第3回	題材開発演習①—題材開発とは— 美術科の授業における題材開発の重要性について学びます。	予習：授業の題材についてアイデアを考える。復習：題材開発の要点を踏まえて自分なりの題材を考える。 4時間
第4回	題材開発演習②—良い題材とは— 美術科の題材に求められるものとは何かを、具体的に例を挙げながら解説します。	復習：独自に考えた題材が学校での美術の授業に適しているか、再検証。 4時間
第5回	題材開発演習③—題材の検証— 実際に題材開発を行って、グループで話し合いながらその長所や課題点を明らかにします。	復習：話し合いを踏まえて、題材の再検証を行う。 4時間
第6回	学習指導案の作成①—概説— 学習指導案についての基礎知識および書き方の通例について学習します。	予習：学習指導案の一般的な書式について学ぶ。復習：授業で学んだことを踏まえて学習指導案の原稿を作成。 4時間
第7回	学習指導案の作成②—題材観— 作成した学習指導案の中で、主に「題材観」「題材設定の理由」「題材について」の項目について検証します。	復習：授業での検証を基に、指導案の各項目を修正する。 4時間
第8回	学習指導案の作成③—指導目標と評価基準— 指導目標の立て方と、それが達成されたかどうかを判断する評価基準の違いについて検証します。	復習：指導目標と評価基準の違いを理解し、当該箇所の修正を行う。 4時間
第9回	学習指導案の作成④—指導計画— 指導計画の立て方と、本時の計画（細案）について検証します。	復習：無理なく適切に題材を指導できるかどうか、授業で学んだことを踏まえて再検証を行う。 4時間
第10回	学習指導要領①—目的— 教科の目的について、学習指導要領に書かれてある理念と照らし合わせながら解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。 4時間
第11回	学習指導要領②—内容— 教科の内容について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。 4時間
第12回	学習指導要領③—指導計画— 教科の指導計画について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。 4時間
第13回	学習指導要領④—共通事項— 新しく学習指導要領の内容に導入された共通事項について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。 4時間
第14回	教職カルテのまとめ 授業のまとめ 教職カルテを再度チェックし、記入漏れや内容の不備などを修正します。 本授業の内容を踏まえて、美術教育に求められている教師像を新たにイメージし、来るべき教育実習や採用試験に向けた準備を行います。	教職カルテの記入、スピーチの結果を基に、自分に足りない課題を再認識し、実習に備える。 4時間

授業科目名	美術科指導法Ⅳ				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

本科目では、中学校・高等学校美術科における各領域の学習指導内容を検討し、目標の設定、指導上の留意点、評価について考察・検証し、学習指導案を作成します。また、作成した指導案に基づき受講者全員が模擬授業を行い、その後の討議により多角的に検証を行い、教育実習において授業が行える力を身に付けることを目標とします。

さらに、授業体験を通して美術科授業で配慮すべきことや、指導のポイントを学び、教科指導において必要な指導力の習得をめざします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践

具体的内容：

目標にかなった適切な授業の提案ができる。

目標：

討議を通して、授業案を作成し、適切な模擬授業の提案ができる。

目標にかなった指導案を作成し、適切な授業の提案ができる。

討議を通じた意見収集から、模擬授業の問題点の検討ができ改善することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目の到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
 S：設定した目標以上の到達状況である
 A：十分満足できる
 B：概ね満足できる
 C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

授業指導

30%

模擬授業の提案、討議の様子

50%

試験（レポート）

20%

評価の基準

：自ら学ぼうとする意欲を評価する。目標にかなった指導ができたかを評価する。

：討議での意見収集から、模擬授業の問題点を検討し改善ができる。ディスカッション時には、自分の意見を述べるだけでなく、他者を尊重し真摯に取り組む姿勢を評価する。

：模擬授業の結果を踏まえた授業プランの作成

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書については、美術科指導法Ⅱで購入したものを引き続き使用します。

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
 『美術資料大阪府版』京都市立芸術大学美術教育研究会編集、修学社
 『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆真、福本謙一、茂木一司 建帛社
 『中学校学習指導要領解説 美術編』 文部科学省
 『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4時間目
 場所： 南館2階研情報デザイン研究室

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の目的及び授業計画、内容紹介 授業評価について 美術科授業の目的と意義及び本科目の授業計画・内容について解説します。 授業評価の方法、評価基準について説明します。	授業計画と内容を確認し、授業の概要について確認する。 4時間
第2回	美術科授業の学びの変遷について 美術科授業の学びの変遷について説明し、現行・新学習指導要領において改訂の要点を検討します。	授業内容をまとめ、美術科授業の学びの変遷、現行・新学習指導要領改訂の要点の理解を深める。 4時間
第3回	指導計画に基づいた授業概要の立案 指導計画に基づいた授業概要について事例をもとに検討します。	指導計画に基づいた授業指導案を立案する。 4時間
第4回	模擬授業計画の演習 模擬授業案作成と実施に向けての留意点について解説します。	自身の指導テーマを反映した模擬授業が実施できるように準備する。 4時間
第5回	模擬授業の実施と討議① 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。 4時間
第6回	模擬授業の実施と討議② 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。 4時間
第7回	討議 意見収集 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業と討議内容の整理を行い、課題と成果を明確にする。 4時間
第8回	模擬授業の実施と討議③ 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。 4時間
第9回	模擬授業演習の中間評価 模擬授業演習の中間評価を行います。	模擬授業演習の内容を検討し、課題と成果についてまとめる。 4時間
第10回	模擬授業の実施と討議④ 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	各発表の記録を振り返りシートにまとめる。模擬授業シミュレーションとグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。 4時間
第11回	模擬授業の実施と討議⑤ 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。 4時間
第12回	授業の導入を考える 模擬授業演習において、授業導入に焦点を当てその要点について検討します。	授業導入における要点を整理しまとめる。 4時間
第13回	授業の展開を考える 模擬授業演習において、授業展開に焦点を当てその要点について検討します。	授業の展開の要点をまとめる 4時間
第14回	模擬授業のまとめ 授業演習、問題点の検討をします。 模擬授業演習を通しての課題と成果を検討し、適切な授業ができるように振り返りシートをまとめます。	授業展開における要点を整理しまとめる。模擬授業の整理、記録を行い実際の授業に生きるように考察する。 4時間

授業科目名	社会科（地理歴史分野）指導法 I 【2021入学生～】				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、まず社会科（地理歴史分野）教育の歴史・展開について学び、現在の社会科（地理歴史分野）における教育目標および育成を目指す資質・能力を理解する。次に学習指導要領に示された社会科（地理歴史分野）の各科目の目標・内容・評価を確認し、その取扱いについて学ぶ。さらに、社会科（地理歴史分野）の学習内容について、背景となる学問領域と関連させてその理解を深めて教材研究への活用方法を検討し、また発展的な学習内容について探究する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	社会科、地理的・歴史的分野の目標・内容編成・単元の評価規準	社会科地理的・歴史的分野の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。社会科地理的・歴史的分野の学習評価の考え方を理解している。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	地理的・歴史的な見方・考え方の視点	社会科地理的・歴史的分野の学習内容について指導上の留意点を理解している。
汎用的な力		地理学・歴史学との関係を理解し、社会科地理的・歴史的分野の教材研究に活用できる。発展的な学習内容について探究し、社会科地理的・歴史的分野の学習指導への位置付けを考察することができる。
1．DP5. 計画・立案力		
2．DP5. 計画・立案力		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題レポート[事例単元の教材研究]	20%	： 教材研究した内容の具体性、使用した適切な資料量、記述の多面性・多角性から評価します。
課題レポート[教材研究事例の学習内容分類]	20%	： 学習指導要領における学習内容と発展的な学習内容への分類の適切さおよび後者の前者への活用方法に関する考察の的確さを評価します。
定期試験	60%	： 社会科地理的・歴史的分野の目標・内容・指導・評価に関する基本的な語句や概念の趣旨を身につけているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説－社会科編－	東洋館出版社	2018年

参考文献等

- ・社会認識教育学会（2010）：『中学校社会科教育』学術図書出版社。
- ・原田智仁編（2017）：『平成29年版 新学習指導要領の展開 社会編』明治図書。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 4 限
場所： 西館 4 階研究室

授業計画

		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>イントロダクション：社会科（地理歴史分野）教育の意義について</p> <p>まず、中学校社会科教育の特徴と意義を概観します。次に、社会科教員に必要な資質・能力を示し、本授業の到達目標を確認します。</p>	4時間
第2回	<p>社会科（地理歴史分野）教育の展開（1）戦前の地理・歴史と社会科成立の経緯について</p> <p>社会科成立の経緯を通して、社会における社会科教育の位置付けを確認します。</p>	4時間
第3回	<p>社会科（地理歴史分野）教育の展開（2）社会科（地理歴史分野）の教育論・実践の歴史について</p> <p>戦後の社会科地理的・歴史的分野の教育論・実践の歴史を通して、社会科地理的・歴史的分野の教育における平成29年要領の位置付けを確認します。</p>	4時間
第4回	<p>社会科（地理歴史分野）教育の目標：社会科地理的・歴史的分野の目標の構造的な理解</p> <p>要領における社会科・地理歴史科教育の目標の構成を、ツール、メソッド、ゴールという視点で読み解きます。</p>	4時間
第5回	<p>社会科（地理歴史分野）教育の内容：社会科地理的・歴史的分野の内容編成について</p> <p>単元構成という視点から、社会科地理的分野・歴史的分野の内容編成を概観します。</p>	4時間
第6回	<p>社会的な見方・考え方や課題の追究・解決：地理的・歴史的分野の見方・考え方の視点の整理</p> <p>社会科地理的分野・歴史的分野の見方・考え方の視点を整理し、課題の追究・解決における活用方法を学びます。</p>	4時間
第7回	<p>社会科地理的分野の内容・指導・評価（1）地理的分野の学習内容の構造的な理解</p> <p>単元の構造に焦点を当て、社会科地理的分野の内容編成を概観します。</p>	4時間
第8回	<p>社会科地理的分野の内容・指導・評価（2）項目別の指導・評価上の留意点について</p> <p>社会科地理的分野の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。</p>	4時間
第9回	<p>社会科歴史的分野の内容・指導・評価（1）歴史的分野の学習内容の構造的な理解</p> <p>単元の構造に焦点を当て、社会科歴史的分野の内容編成を概観します。</p>	4時間
第10回	<p>社会科歴史的分野の内容・指導・評価（2）項目別の指導・評価上の留意点について</p> <p>社会科歴史的分野の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。</p>	4時間

第11回	<p>教材研究と教材開発（1）「教材研究」の概念およびその方法について</p> <p>社会科地理的・歴史的分野の「どのような資質・能力を身に付けるために何をどのように活用しているか」、事例を通して、教材研究の目的と方法について学びます。</p>	<p>予習：社会科要領解説を読み、地理的・歴史的分野の教材活用に関する記述をピックアップしておいてください。復習：事例單元においてどのような教材活用が求められているか確認してください。</p>	4時間
第12回	<p>教材研究と教材開発（2）背景となる地理学・歴史学の知識を活かした教材研究について</p> <p>事例單元について、社会科地理的・歴史的分野の背景となる学問領域の知識との関連性を確認します。</p>	<p>予習：課題レポート[事例単元の教材研究]を提出してください。復習：[事例単元の教材研究]を修正し、再提出してください。</p>	4時間
第13回	<p>発展的な学習内容（1）「発展的な学習内容」と「補充的な学習内容」について</p> <p>社会科における「発展的な学習内容」と「補充的な学習内容」の果たす役割について、事例を比較しながら学びます。</p>	<p>予習：文部科学省HPの「発展的な学習内容」に関する記述を一読しておいてください。復習：課題レポート[教材研究事例の学習内容分類]を提出してください。</p>	4時間
第14回	<p>発展的な学習内容（2）教科の指導における発展的な学習内容の役割について・授業のまとめ</p> <p>教材研究した事例單元について、発展的な学習内容と補充的な学習内容の位置付けを検討します。授業の振り返りを行い、社会科地理的・歴史的分野の教育における目標、育成を目指す資質・能力を確認します。</p>	<p>予習：シラバスと配布資料を通読し、授業資料からキーワードを抜き出し整理しておいてください。復習：課題レポート[教材研究事例の学習内容分類]を修正し、再提出してください。キーワードの類別を中心に試験の準備学習をしてください。</p>	4時間

授業科目名	社会科（地理歴史分野）指導法Ⅱ【2021入学生～】				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

まず「社会科（地理歴史分野）指導法Ⅰ」で学修した社会科教育の教育目標、育成を目指す資質・能力を確認する。次に授業づくりにあたり、学習指導案の構成、子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計のための観点、情報機器の使用法、地域の活用法、問いの構造化、てだてを学ぶ。続いて地理・歴史分野の授業づくりおよび模擬授業を实践し、その振り返りを行う。さらに社会科における実践研究の動向を知り、模擬授業の改善案を作成する。最後に授業実施のために必要な資質・能力を考え、教育実習までに修得すべき課題を確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	単元観・生徒観・指導観の活用方法	子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 社会科地理的・歴史的分野の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	社会科地理的・歴史的分野の学習指導案作成方法	社会科地理的・歴史的分野の学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		社会科地理的・歴史的分野の模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
2．DP6. 行動・実践		社会科地理的・歴史的分野における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

学習指導案の作成

評価の基準

40%	： 単元観・生徒観を踏まえた指導観のてだての適切さを評価します。 単元の目標・評価規準・単元計画・本時の指導の関連性、見方・考え方の働かせ方の有無、および授業展開の構造化の的確さから評価します。
10%	： 生徒役を務めた際、授業者を務めた際、共に単元の構造的な理解、見方・考え方、課題追究・解決、展開の構造化などの視点からの指摘の的確さ、改善方法の的確さ、具体性から評価します。
10%	： 授業理論の紹介は、内容の適切さ、具体性、わかりやすさから評価します。 授業理論の活用は、模擬授業の指導案修正を想定した際の選択した授業理論の適切さおよび理論適用の適切さから評価します。

定期試験 : 社会科地理的・歴史的分野における生徒観・指導観、情報機器の活用、指導案の構成に関する基本的な語句や概念の趣旨を身につけているかを評価します。
40%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説－社会科編－	東洋館出版社	2018年

参考文献等

・原田智仁編（2017）：『平成29年版 新学習指導要領の展開 社会編』明治図書。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 4 限
場所： 西館 4 階研究室

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	イントロダクション：社会科教育の教育目標、育成を目指す資質・能力を確認 「社会科・地理歴史科指導法Ⅰ」の学びを振り返り、中学校社会科教育の目標、社会科教員に必要な資質・能力を再度確認します。	4時間
第2回	学習指導案の構成：学習指導案作成の意義と必要とされる項目について 事例指導案を用いて、指導案作成の意義、必要とされる項目、およびその活用方法について学びます。	4時間
第3回	生徒観：統計・記事等からみた子供の認識・思考、社会科に関する学力等の実態 記事、統計資料、実践研究などから社会科地理的・歴史的分野に関する近年の子供の認識・思考、学力等の実態を確認します。	4時間
第4回	単元観と単元目標：単元目標の立て方、評価基準・方法および作成時の留意点について 指導案の作成に必要な単元目標の立て方およびその評価基準・方法および作成時の留意点を学びます。	4時間
第5回	単元観と単元計画：単元の構造的な理解と単元計画の作成方法について 単元を構造的に理解することを通じて、単元計画の作成方法を学びます。また、単元計画を基に単元の問いを設定し、模擬授業における本時の問いを立てます。	4時間
第6回	授業設計：問いの選択とつなぎ方の工夫による展開の構造化について 指導案の例を用いて、「本時の問い」から問い（発問）の選択とつなぎ方を工夫することで「展開の構造化」を実践する方法を学びます。	4時間
第7回	深い学びへの展開方法：見方・考え方を働かせた課題の追究・解決について 地理的な見方・考え方、歴史的な見方・考え方の視点を整理し、課題の追究・解決における活用方法を学びます。	4時間
第8回	情報機器の効果的な活用法：電子黒板、デジタル教科書、webGISの活用について 電子黒板やデジタル教科書の活用など、授業における情報機器の活用方法を学びます。また、近年活用が容易になったwebGISやビッグデータの活用方法を学びます。	4時間

第9回	<p>身近な地域の教材化：教材としての地域の効果的な活用法と留意点について</p> <p>授業における地域の活用方法と留意点、および学外授業において主体的な学びを実践するための留意点について考える。</p>	<p>予習：要領解説を読み、地域に関する記述をピックアップしておいてください。復習：要領解説を読み、模擬授業担当単元において、地域を活用する方法がないか検討してください。</p>	4時間
第10回	<p>指導観とてだて：共有化、焦点化、視覚化、スモールステップ化、身体性の活用等について</p> <p>共有化、焦点化、視覚化、スモールステップ化、身体性の活用などのてだての方法を学びます。</p>	<p>予習：授業におけるてだてについての方法について調べておいてください。復習：生徒観・単元観の内容を振り返り、模擬授業担当単元において、活用可能なてだてを考えてください。</p>	4時間
第11回	<p>模擬授業と振り返り（1）地理的分野の模擬授業の実施と授業改善についての議論</p> <p>生徒役が指導案を通読した後、教師役による社会科地理的分野の模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された地理的分野の模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、地理的分野の模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、地理的分野の模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、地理的分野の模擬授業の振り返りを提出してください。</p>	4時間
第12回	<p>模擬授業と振り返り（2）歴史的分野の模擬授業の実施と授業改善についての議論</p> <p>生徒役が指導案を通読した後、教師役による社会科歴史的分野の模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された歴史的分野の模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、歴史的分野の模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、歴史的分野の模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、歴史的分野の模擬授業の振り返りを提出してください。</p>	4時間
第13回	<p>授業理論と授業改善（1）社会科の授業理論の紹介と実践研究の動向について</p> <p>社会科の授業理論のキーワードの紹介を通じて、社会科における実践研究の動向を共有します。</p>	<p>予習：課題レポート[授業理論の紹介と活用]を提出してください。復習：授業で紹介された授業理論の他、模擬授業担当単元で活用できる授業理論がないか調べてください。</p>	4時間
第14回	<p>授業理論と授業改善（2）授業理論を用いた模擬授業の改善案の議論・授業のまとめ</p> <p>授業理論の活用方法として、模擬授業の改善案を発表し、ディスカッションを行います。授業を振り返り、社会科の教員に必要な身に付けるべき資質・能力について考えます。</p>	<p>予習：他の履修者が紹介した授業理論を自身の模擬授業担当単元で活用する方法を検討しておいてください。復習：課題レポート[授業理論の紹介と活用]を修正し、再提出してください。教育実習に向けた自身の課題を挙げ、教育実習までに達成することをリスト化してください。生徒観と指導観、情報機器の活用、指導案の構成を中心に試験の準備学習をしてください。</p>	4時間

授業科目名	社会科・公民科指導法Ⅰ				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、まず社会科・公民科教育の歴史・展開について学び、現在の社会科・公民科における教育目標および育成を目指す資質・能力を理解する。次に、学習指導要領に示された社会科・公民科の各科目の目標・内容・評価を確認し、指導におけるその取扱いについて学ぶ。さらに、社会科・公民科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させてその理解を深めて教材研究への活用方法を検討し、また発展的な学習内容について探究する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

具体的内容：

- 社会科、社会科公民科の分野、公民科の目標・内容編成・単元の評価規準
- 社会的な見方・考え方の視点

目標：

- 社会科・公民科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
社会科・公民科の学習評価の考え方を理解している。
- 社会科・公民科の学習内容について指導上の留意点を理解している。

- 背景となる学問分野との関係を理解し、社会科・公民科の教材研究に活用できる。
発展的な学習内容を探究し、社会科・公民科の学習指導への位置付けを考察できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

- | | | |
|-----------------------|-----|--|
| 課題レポート[事例単元の教材研究] | 20% | ： 教材研究した内容の具体性、使用した適切な資料量、記述の多面性・多角性から評価します。 |
| 課題レポート[教材研究事例の学習内容分類] | 20% | ： 学習指導要領における学習内容と発展的な学習内容への分類の適切さおよび後者の前者への活用方法に関する考察の的確さを評価します。 |
| 定期試験 | 60% | ： 社会科・公民科の目標・内容・指導・評価に関する基本的な語句や概念の趣旨を身につけているかを評価します。 |

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説—社会科編—	・ 東洋館出版社	・ 2018年
文部科学省	・ 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説—公民編—	・ 東京書籍	・ 2019年

参考文献等

- ・社会認識教育学会（2010）：『中学校社会科教育』学術図書出版社。
- ・原田智仁編（2017）：『平成29年版 新学習指導要領の展開 社会編』明治図書。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4限
場所： 西館4階研究室

授業計画

		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>イントロダクション：社会科・公民科教育の意義について</p> <p>まず、社会科・公民科教育の特徴と意義を概観します。次に、社会科・公民科教員に必要な資質・能力を示し、本授業の到達目標を確認します。</p>	<p>予習：社会科/公民科要領解説の「第1章総説 2社会科/公民科改訂の趣旨及び要 点」を読み、社会科・公民科教員に必要な資質・能力について考えておいてください。復習：シラバスを通読し、本授業で達成されるべき到達目標を確認してください。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>社会科・公民科教育の展開（1）戦前の科目編成と社会科成立の経緯について</p> <p>社会科成立の経緯を通して、社会における社会科教育の位置付け、公民としての資質の起源を確認します。</p>	<p>予習：webページなどの資料を活用して、戦前の社会科・公民科の科目名とその内容を調べておいてください。復習：配布資料を用いて、第2回の授業キーワードの確認課題を提出してください。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>社会科・公民科教育の展開（2）社会科・公民科の教育論・実践の歴史について</p> <p>戦後の社会科・公民科の教育論・実践の歴史を通して、社会科・公民科教育における平成29・30年要領の位置付けを確認します。</p>	<p>予習：国立教育政策研究所HPの「学習指導要領データベース」を参照し、これまで社会科・公民科要領の改訂が何度あったかを確認しておいてください。復習：配布資料を用いて、第3回の授業キーワードの確認課題を提出してください。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>社会科・公民科教育の目標：社会科公民的分野・公民科の目標の構造的理解</p> <p>要領における社会科・公民科教育の目標の構成を、ツール、メソッド、ゴールという視点で読み解きます。</p>	<p>予習：社会科要領解説で社会科公民的分野の目標を、公民科要領解説で公民科の教科と各科目の目標を通読しておいてください。復習：配布資料を用いて、第4回の授業キーワードの確認課題を提出してください。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>社会科・公民科教育の内容：社会科公民的分野・公民科の内容・科目編成について</p> <p>単元構成という視点から、社会科公民的分野・公民科の内容編成を概観します。</p>	<p>予習：社会科要領解説で社会科公民的分野の内容を、公民科の教科と各科目の内容を通読しておいてください。復習：配布資料を用いて、第5回の授業キーワードの確認課題を提出してください。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>社会的な見方・考え方と課題の追究・解決：各分野・教科固有の見方・考え方の視点の整理</p> <p>社会科公民的分野・公民科の見方・考え方の視点を整理し、課題の追究・解決における活用方法を学びます。</p>	<p>予習：社会科要領・公民科要領を読み、各分野・科目における見方・考え方のキーワードをピックアップしておいてください。復習：配布資料を用いて、第6回の授業キーワードの確認課題を提出してください。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>社会科公民的分野の内容・指導・評価：内容の構造的理解と項目別の指導・評価上の留意点</p> <p>単元の構造に焦点を当て、社会科公民的分野の内容編成を概観します。また、社会科公民的分野の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。</p>	<p>予習：社会科要領解説の「第2章第2節3公民的分野の目標、内容及び内容の取扱い」を通読しておいてください。復習：事例単元の構造図を完成させてください。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>公民科公共の内容・指導・評価：内容の構造的理解と項目別の指導・評価上の留意点</p> <p>単元の構造に焦点を当て、公民科公共の内容編成を概観します。また、公民科公共の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。</p>	<p>予習：要領解説の「第2章公民科の各科目第1節公共」を通読しておいてください。復習：事例単元の構造図を完成させてください。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>公民科倫理の内容・指導・評価：内容の構造的理解と項目別の指導・評価上の留意点</p> <p>単元の構造に焦点を当て、公民科倫理の内容編成を概観します。また、公民科倫理の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。</p>	<p>予習：要領解説の「第2章公民科の各科目第2節倫理」を通読しておいてください。復習：事例単元の構造図を完成させてください。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>公民科政治・経済の内容・指導・評価：内容の構造的理解と項目別の指導・評価上の留意点</p> <p>単元の構造に焦点を当て、公民科政治・経済の内容編成を概観します。また、公民科政治・経済の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。</p>	<p>予習：要領解説の「第2章公民科の各科目第3節政治・経済」を通読しておいてください。復習：事例単元の構造図を完成させてください。</p> <p>4時間</p>

第11回	<p>教材研究と教材開発（１）「教材研究」の概念およびその方法について</p> <p>社会科公民的分野・公民科の「どのような資質・能力を身に付けるために何をどのように活用しているか」、事例を通して、教材研究の目的と方法について学びます。</p>	<p>予習：要領解説を読み、社会科公民的分野・公民科の教材活用に関する記述をピックアップしておいてください。復習：事例単元においてどのような教材活用が求められているか確認してください。</p>	4時間
第12回	<p>教材研究と教材開発（２）背景となる学問領域の知識を活かした教材研究について</p> <p>事例単元について、社会科公民的分野・公民科の背景となる学問領域の知識との関連性を確認します。</p>	<p>予習：課題レポート[事例単元の教材研究]復習：[事例単元の教材研究]課題を修正してください。</p>	4時間
第13回	<p>発展的な学習内容（１）「発展的な学習内容」と「補充的な学習内容」について</p> <p>社会科公民的分野・公民科における「発展的な学習内容」と「補充的な学習内容」の果たす役割について、事例を比較しながら学びます。</p>	<p>予習：文部科学省HPの「発展的な学習内容」に関する記述を一読しておいてください。復習：配布資料を用いて、第13回の授業キーワードの確認課題を提出してください。</p>	4時間
第14回	<p>発展的な学習内容（２）教科の指導における発展的な学習内容の役割について・授業のまとめ</p> <p>教材研究した事例単元について、発展的な学習内容と補充的な学習内容の位置付けを検討します。授業の振り返りを行い、社会科公民的分野・公民科教育の目標、育成を目指す資質・能力を確認します。</p>	<p>予習：シラバスと配布資料を通読し、授業資料からキーワードを抜き出し整理しておいてください。復習：課題レポート[教材研究事例の学習内容分類]を修正し、再提出してください。キーワードの類別を中心に試験の準備学習をしてください。</p>	4時間

授業科目名	社会科・公民科指導法Ⅱ				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

まず「社会科・公民科指導法Ⅰ」で学修した社会科教育の教育目標、育成を目指す資質・能力を確認する。次に授業づくりに臨むにあたり、学習指導案の構成、子どもの実態を視野に入れた授業設計のための観点、情報機器の使用法、問いの構造化、てだてについて学ぶ。続いて、社会科・公民科の分野・公民科の授業づくりおよび模擬授業を実践し、その振り返りを行う。さらに社会科・公民科における実践研究の動向を知り、模擬授業の改善案を作成する。最後に授業実施のために必要な資質・能力について考え、教育実習までに修得すべき課題を確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 単元観・生徒観・指導観の活用方法
- 社会科・公民科の学習指導案作成方法

目標：

子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

社会科・公民科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

社会科・公民科の学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践

社会科・公民科の模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

社会科・公民科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

学習指導案の作成

評価の基準

： 単元観・生徒観を踏まえた指導観のてだての適切さを評価します。
単元の目標・評価規準・単元計画・本時の指導の関連性、見方・考え方の働かせ方の有無、および授業展開の構造化の的確さから評価します。

40%

課題レポート[模擬授業の振り返り]

： 生徒役を務めた際、授業者を務めた際、共に単元の構造的な理解、見方・考え方、課題追究・解決、展開の構造化などの視点からの指摘の的確さ、改善方法の的確さ、具体性から評価します。

10%

課題レポート[授業理論の紹介と活用]

： 授業理論の紹介は、内容の適切さ、具体性、わかりやすさから評価します。
授業理論の活用は、模擬授業の指導案修正を想定した際の選択した授業理論の適切さおよび理論適用の適切さから評価します。

10%

定期試験 : 社会科・公民科における生徒観・指導観、情報機器の活用、指導案の構成に関する基本的な語句や概念の趣旨を身につけているかを評価します。
40%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説—社会科編—	・ 東洋館出版社	・ 2018年
文部科学省	・ 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説—公民編—	・ 東京書籍	・ 2019年

参考文献等

・ 澤井陽介・加藤寿朗(2017) : 『見方・考え方[社会編]—「見方・考え方」を働かせる真の授業の姿とは?—』東洋館出版社。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間 : 火曜 4限
場所 : 西館 4階研究室

授業計画

回	内容	予習・復習	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	イントロダクション：社会科教育の教育目標、育成を目指す資質・能力を確認 「社会科・公民科指導法Ⅰ」の学びを振り返り、中学校社会科教育の目標、社会科教員に必要な資質・能力を再度確認します。	予習：「社会科・公民科指導法Ⅰ」配布資料を一読し、社会科・公民科教員に必要な資質・能力における自身の課題について考えておいてください。復習：本授業のシラバスを通読し、社会科の教科教育法で最終的に達成されるべき到達目標を確認してください。	4時間
第2回	学習指導案の構成：学習指導案作成の意義と必要とされる項目について 事例指導案を用いて、指導案作成の意義、必要とされる項目、およびその活用方法について学びます。	予習：配布した事例指導案集を一読しておいてください。復習：配布した事例指導案集の項目とwebページ等で見つけることができる指導案の項目を比較し、項目の有無を確認してください。	4時間
第3回	生徒観：統計・記事等からみた子供の認識・思考、社会科に関する学力等の実態 記事、統計資料、実践研究などから社会科・公民科に関する近年の子供の認識・思考、学力等の実態を確認します。	予習：授業での話題提供に必要な社会科・公民科に関する子供の認識・思考、学力等の実態に関する記事、統計資料、実践研究などを探し、持参してください。復習：配布した事例指導案集の生徒観を読み、認識・思考、学力に関する記述をピックアップしてください。	4時間
第4回	単元観と単元目標：単元目標の立て方、評価基準・方法および作成時の留意点について 指導案の作成に必要な単元目標の立て方およびその評価基準・方法および作成時の留意点を学びます。	予習：模擬授業担当単元について、教科書および要領解説の内容と内容の取り扱いを読んでください。復習：国立教育政策研究所HPの「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」、「学習評価の在り方ハンドブック」を一読しておいてください。	4時間
第5回	単元観と単元計画：単元の構造的な理解と単元計画の作成方法について 単元を構造的に理解することを通じて、単元計画の作成方法を学びます。また、単元計画を単元の問いを設定し、模擬授業における本時の問いを立てます。	予習：模擬授業担当単元の構造図を作成してください。復習：模擬授業担当単元の単元計画を作成してください。	4時間
第6回	深い学びの授業設計：問いによる展開の構造化と見方・考え方を働かせた課題の追究・解決 指導案の例を用いて、「本時の問い」から問い(発問)の選択とつなぎ方を工夫することで「展開の構造化」を実践する方法を学びます。また、社会科・公民科の見方・考え方の視点を整理し、課題の追究・解決に活用方法を学びます。	予習：要領解説を読み、模擬授業担当単元に活用できる見方・考え方の視点をピックアップしておいてください。復習：模擬授業担当単元について、見方・考え方を働かせた問いを組み合わせる展開の構造化を行い、授業展開案を作成してください。	4時間
第7回	情報機器の効果的な活用法：電子黒板、デジタル教科書などの活用について 電子黒板やデジタル教科書の活用など、授業における情報機器の活用方法を学びます。	予習：電子黒板のマニュアル、デジタル教科書のパンフレット等を読んでおいてください。復習：要領解説を読み、情報機器の活用に関する記述をピックアップし、模擬授業担当単元においてどのような教材活用が求められているか確認してください。	4時間
第8回	指導観とてだて：共有化、焦点化、視覚化、スモールステップ化、身体性の活用等について 共有化、焦点化、視覚化、スモールステップ化、身体性の活用などのてだての方法を学びます。	予習：授業におけるてだてについての方法について調べておいてください。復習：生徒観・単元観の内容を振り返り、模擬授業担当単元において、活用可能なてだてを考えてください。	4時間

第9回	模擬授業と振り返り（１）公民的分野の模擬授業の実施と授業改善についての議論	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された公民的分野の模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、公民的分野の模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、公民的分野の模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、公民的分野の模擬授業の振り返りを提出してください。</p>	4時間
	<p>生徒役が指導案を通読した後、教師役による社会科公民的分野の模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>		
第10回	模擬授業と振り返り（２）公共の模擬授業の実施と授業改善についての議論	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された公共の模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後公共の模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、公共の模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、公共の模擬授業の振り返りを提出してください。</p>	4時間
	<p>生徒役が指導案を通読した後、教師役による公共の模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>		
第11回	模擬授業と振り返り（３）倫理の模擬授業の実施と授業改善についての議論	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された倫理の模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後倫理の模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、倫理の模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、倫理の模擬授業の振り返りを提出してください。</p>	4時間
	<p>生徒役が指導案を通読した後、教師役による倫理の模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>		
第12回	模擬授業と振り返り（４）政治・経済の模擬授業の実施と授業改善についての議論	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された政治・経済の模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後政治・経済の模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、政治・経済の模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、政治・経済の模擬授業の振り返りを提出してください。</p>	4時間
	<p>生徒役が指導案を通読した後、教師役による政治・経済の模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>		
第13回	授業理論と授業改善（１）公民的分野・公民科の授業理論の紹介と実践研究の動向について	<p>予習：課題レポート[授業理論の紹介と活用]を提出してください。復習：授業で紹介された授業理論の他、模擬授業担当単元で活用できる授業理論がないか調べてください。</p>	4時間
	<p>社会科公民的分野・公民科の授業理論のキーワードの紹介を通じて、社会科における実践研究の動向を共有します。</p>		
第14回	授業理論と授業改善（２）授業理論を用いた模擬授業の改善案の議論・授業のまとめ	<p>予習：他の履修者が紹介した授業理論を自身の模擬授業担当単元で活用する方法を検討しておいてください。復習：課題レポート[授業理論の紹介と活用]を修正し、再提出してください。教育実習に向けた自身の課題を挙げ、教育実習までに達成することをリスト化してください。生徒観と指導観、情報機器の活用、指導案の構成を中心に試験の準備学修をしてください。</p>	4時間
	<p>社会科公民的分野・公民科の授業理論の活用方法として、模擬授業の改善案を発表し、ディスカッションを行います。授業を振り返り、社会科・公民科の教員に必要な身に付けるべき資質・能力について考えます。</p>		

授業科目名	社会科・地理歴史科指導法 I 【～2020入学生】				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、まず社会科（地理歴史分野）教育の歴史・展開について学び、現在の社会科（地理歴史分野）における教育目標および育成を目指す資質・能力を理解する。次に学習指導要領に示された社会科（地理歴史分野）の各科目の目標・内容・評価を確認し、その取扱いについて学ぶ。さらに、社会科（地理歴史分野）の学習内容について、背景となる学問領域と関連させてその理解を深めて教材研究への活用方法を検討し、また発展的な学習内容について探究する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	社会科、地理的・歴史的分野の目標・内容編成・単元の評価規準	社会科地理的・歴史的分野の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。社会科地理的・歴史的分野の学習評価の考え方を理解している。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	地理的・歴史的な見方・考え方の視点	社会科地理的・歴史的分野の学習内容について指導上の留意点を理解している。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		地理学・歴史学との関係を理解し、社会科地理的・歴史的分野の教材研究に活用できる。
2．DP5. 計画・立案力		発展的な学習内容について探究し、社会科地理的・歴史的分野の学習指導への位置付けを考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題レポート[事例単元の教材研究]	20%	： 教材研究した内容の具体性、使用した適切な資料量、記述の多面性・多角性から評価します。
課題レポート[教材研究事例の学習内容分類]	20%	： 学習指導要領における学習内容と発展的な学習内容への分類の適切さおよび後者の前者への活用方法に関する考察の的確さを評価します。
定期試験	60%	： 社会科地理的・歴史的分野の目標・内容・指導・評価に関する基本的な語句や概念の趣旨を身につけているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説－社会科編－	東洋館出版社	2018年

参考文献等

- ・社会認識教育学会（2010）：『中学校社会科教育』学術図書出版社。
- ・原田智仁編（2017）：『平成29年版 新学習指導要領の展開 社会編』明治図書。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 4 限
場所： 西館 4 階研究室

授業計画

		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>イントロダクション：社会科（地理歴史分野）教育の意義について</p> <p>まず、中学校社会科教育の特徴と意義を概観します。次に、社会科教員に必要な資質・能力を示し、本授業の到達目標を確認します。</p>	4時間
第2回	<p>社会科（地理歴史分野）教育の展開（1）戦前の地理・歴史と社会科成立の経緯について</p> <p>社会科成立の経緯を通して、社会における社会科教育の位置付けを確認します。</p>	4時間
第3回	<p>社会科（地理歴史分野）教育の展開（2）社会科（地理歴史分野）の教育論・実践の歴史について</p> <p>戦後の社会科地理的・歴史的分野の教育論・実践の歴史を通して、社会科地理的・歴史的分野の教育における平成29年要領の位置付けを確認します。</p>	4時間
第4回	<p>社会科（地理歴史分野）教育の目標：社会科地理的・歴史的分野の目標の構造的な理解</p> <p>要領における社会科・地理歴史科教育の目標の構成を、ツール、メソッド、ゴールという視点で読み解きます。</p>	4時間
第5回	<p>社会科（地理歴史分野）教育の内容：社会科地理的・歴史的分野の内容編成について</p> <p>単元構成という視点から、社会科地理的分野・歴史的分野の内容編成を概観します。</p>	4時間
第6回	<p>社会的な見方・考え方や課題の追究・解決：地理的・歴史的分野の見方・考え方の視点の整理</p> <p>社会科地理的分野・歴史的分野の見方・考え方の視点を整理し、課題の追究・解決における活用方法を学びます。</p>	4時間
第7回	<p>社会科地理的分野の内容・指導・評価（1）地理的分野の学習内容の構造的な理解</p> <p>単元の構造に焦点を当て、社会科地理的分野の内容編成を概観します。</p>	4時間
第8回	<p>社会科地理的分野の内容・指導・評価（2）項目別の指導・評価上の留意点について</p> <p>社会科地理的分野の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。</p>	4時間
第9回	<p>社会科歴史的分野の内容・指導・評価（1）歴史的分野の学習内容の構造的な理解</p> <p>単元の構造に焦点を当て、社会科歴史的分野の内容編成を概観します。</p>	4時間
第10回	<p>社会科歴史的分野の内容・指導・評価（2）項目別の指導・評価上の留意点について</p> <p>社会科歴史的分野の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。</p>	4時間

第11回	<p>教材研究と教材開発（１）「教材研究」の概念およびその方法について</p> <p>社会科地理的・歴史的分野の「どのような資質・能力を身に付けるために何をどのように活用しているか」、事例を通して、教材研究の目的と方法について学びます。</p>	<p>予習：社会科要領解説を読み、地理的・歴史的分野の教材活用に関する記述をピックアップしておいてください。復習：事例單元においてどのような教材活用が求められているか確認してください。</p>	4時間
第12回	<p>教材研究と教材開発（２）背景となる地理学・歴史学の知識を活かした教材研究について</p> <p>事例單元について、社会科地理的・歴史的分野の背景となる学問領域の知識との関連性を確認します。</p>	<p>予習：課題レポート[事例単元の教材研究]を提出してください。復習：[事例単元の教材研究]を修正し、再提出してください。</p>	4時間
第13回	<p>発展的な学習内容（１）「発展的な学習内容」と「補充的な学習内容」について</p> <p>社会科における「発展的な学習内容」と「補充的な学習内容」の果たす役割について、事例を比較しながら学びます。</p>	<p>予習：文部科学省HPの「発展的な学習内容」に関する記述を一読しておいてください。復習：課題レポート[教材研究事例の学習内容分類]を提出してください。</p>	4時間
第14回	<p>発展的な学習内容（２）教科の指導における発展的な学習内容の役割について・授業のまとめ</p> <p>教材研究した事例單元について、発展的な学習内容と補充的な学習内容の位置付けを検討します。授業の振り返りを行い、社会科地理的・歴史的分野の教育における目標、育成を目指す資質・能力を確認します。</p>	<p>予習：シラバスと配布資料を通読し、授業資料からキーワードを抜き出し整理しておいてください。復習：課題レポート[教材研究事例の学習内容分類]を修正し、再提出してください。キーワードの類別を中心に試験の準備学修をしてください。</p>	4時間

授業科目名	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ【～2020入学生】				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

まず「社会科（地理歴史分野）指導法Ⅰ」で学修した社会科教育の教育目標、育成を目指す資質・能力を確認する。次に授業づくりにあたり、学習指導案の構成、子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計のための観点、情報機器の使用法、地域の活用法、問いの構造化、てだてを学ぶ。続いて地理・歴史分野の授業づくりおよび模擬授業を实践し、その振り返りを行う。さらに社会科における実践研究の動向を知り、模擬授業の改善案を作成する。最後に授業実施のために必要な資質・能力を考え、教育実習までに修得すべき課題を確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を实践で発揮する力

具体的内容：

- 単元観・生徒観・指導観の活用方法
- 社会科地理的・歴史的分野の学習指導案作成方法

目標：

- 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
- 社会科地理的・歴史的分野の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
- 社会科地理的・歴史的分野の学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践

社会科地理的・歴史的分野の模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

社会科地理的・歴史的分野における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

学習指導案の作成

評価の基準

- 40%
- 課題レポート[模擬授業の振り返り]
- 10%
- 課題レポート[授業理論の紹介と活用]
- 10%
- ： 単元観・生徒観を踏まえた指導観のてだての適切さを評価します。単元の目標・評価基準・単元計画・本時の指導の関連性、見方・考え方の働かせ方の有無、および授業展開の構造化の的確さから評価します。
- ： 生徒役を務めた際、授業者を務めた際、共に単元の構造的な理解、見方・考え方、課題追究・解決、展開の構造化などの視点からの指摘の的確さ、改善方法の的確さ、具体性から評価します。
- ： 授業理論の紹介は、内容の適切さ、具体性、わかりやすさから評価します。授業理論の活用は、模擬授業の指導案修正を想定した際の選択した授業理論の適切さおよび理論適用の適切さから評価します。

定期試験 : 社会科地理的・歴史的分野における生徒観・指導観、情報機器の活用、指導案の構成に関する基本的な語句や概念の趣旨を身につけているかを評価します。
40%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説－社会科編－	東洋館出版社	2018年

参考文献等

・原田智仁編（2017）：『平成29年版 新学習指導要領の展開 社会編』明治図書。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 4 限
場所： 西館 4 階研究室

授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	イントロダクション：社会科教育の教育目標、育成を目指す資質・能力を確認 「社会科・地理歴史科指導法Ⅰ」の学びを振り返り、中学校社会科教育の目標、社会科教員に必要な資質・能力を再度確認します。	4時間
第2回	学習指導案の構成：学習指導案作成の意義と必要とされる項目について 事例指導案を用いて、指導案作成の意義、必要とされる項目、およびその活用方法について学びます。	4時間
第3回	生徒観：統計・記事等からみた子供の認識・思考、社会科に関する学力等の実態 記事、統計資料、実践研究などから社会科地理的・歴史的分野に関する近年の子供の認識・思考、学力等の実態を確認します。	4時間
第4回	単元観と単元目標：単元目標の立て方、評価基準・方法および作成時の留意点について 指導案の作成に必要な単元目標の立て方およびその評価基準・方法および作成時の留意点を学びます。	4時間
第5回	単元観と単元計画：単元の構造的な理解と単元計画の作成方法について 単元を構造的に理解することを通じて、単元計画の作成方法を学びます。また、単元計画を基に単元の問いを設定し、模擬授業における本時の問いを立てます。	4時間
第6回	授業設計：問いの選択とつなぎ方の工夫による展開の構造化について 指導案の例を用いて、「本時の問い」から問い（発問）の選択とつなぎ方を工夫することで「展開の構造化」を実践する方法を学びます。	4時間
第7回	深い学びへの展開方法：見方・考え方を働かせた課題の追究・解決について 地理的な見方・考え方、歴史的な見方・考え方の視点を整理し、課題の追究・解決における活用方法を学びます。	4時間
第8回	情報機器の効果的な活用法：電子黒板、デジタル教科書、webGISの活用について 電子黒板やデジタル教科書の活用など、授業における情報機器の活用方法を学びます。また、近年活用が容易になったwebGISやビッグデータの活用方法を学びます。	4時間

第9回	<p>身近な地域の教材化：教材としての地域の効果的な活用法と留意点について</p> <p>授業における地域の活用方法と留意点、および学外授業において主体的な学びを実践するための留意点について考える。</p>	<p>予習：要領解説を読み、地域に関する記述をピックアップしておいてください。復習：要領解説を読み、模擬授業担当単元において、地域を活用する方法がないか検討してください。</p>	4時間
第10回	<p>指導観とてだて：共有化、焦点化、視覚化、スモールステップ化、身体性の活用等について</p> <p>共有化、焦点化、視覚化、スモールステップ化、身体性の活用などのてだての方法を学びます。</p>	<p>予習：授業におけるてだてについての方法について調べておいてください。復習：生徒観・単元観の内容を振り返り、模擬授業担当単元において、活用可能なてだてを考えてください。</p>	4時間
第11回	<p>模擬授業と振り返り（1）地理的分野の模擬授業の実施と授業改善についての議論</p> <p>生徒役が指導案を通読した後、教師役による社会科地理的分野の模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された地理的分野の模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、地理的分野の模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、地理的分野の模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、地理的分野の模擬授業の振り返りを提出してください。</p>	4時間
第12回	<p>模擬授業と振り返り（2）歴史的分野の模擬授業の実施と授業改善についての議論</p> <p>生徒役が指導案を通読した後、教師役による社会科歴史的分野の模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された歴史的分野の模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、歴史的分野の模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、歴史的分野の模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、歴史的分野の模擬授業の振り返りを提出してください。</p>	4時間
第13回	<p>授業理論と授業改善（1）社会科の授業理論の紹介と実践研究の動向について</p> <p>社会科の授業理論のキーワードの紹介を通じて、社会科における実践研究の動向を共有します。</p>	<p>予習：課題レポート[授業理論の紹介と活用]を提出してください。復習：授業で紹介された授業理論の他、模擬授業担当単元で活用できる授業理論がないか調べてください。</p>	4時間
第14回	<p>授業理論と授業改善（2）授業理論を用いた模擬授業の改善案の議論・授業のまとめ</p> <p>授業理論の活用方法として、模擬授業の改善案を発表し、ディスカッションを行います。授業を振り返り、社会科の教員に必要な身に付けるべき資質・能力について考えます。</p>	<p>予習：他の履修者が紹介した授業理論を自身の模擬授業担当単元で活用する方法を検討しておいてください。復習：課題レポート[授業理論の紹介と活用]を修正し、再提出してください。教育実習に向けた自身の課題を挙げ、教育実習までに達成することをリスト化してください。生徒観と指導観、情報機器の活用、指導案の構成を中心に試験の準備学習をしてください。</p>	4時間

授業科目名	道徳教育の指導法（中等）【2018入学生】				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭（23年），小学校教頭（5年），教育委員会指導主事（2年），小学校長（7年）（全14回）				

授業概要

道徳教育の基盤である道徳の意味や善悪、正しさについての理解をもとに、生徒に道徳教育を行うことの意義を理解させるとともに、「特別の教科 道徳（道徳科）」の特質や指導方法について論じる。その際、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育との違いや関連について論じながら、学級づくり、生徒理解、生徒指導のあり方についても取り上げる。その中で、道徳教育の理論や方法、道徳性の発達について、実際の生徒の姿を具体的に示しながら、教師として求められる姿勢や態度、指導力について論じる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

道徳教育に関する専門的な知識の習得
「特別の教科 道徳」の指導に関する専門的な基礎知識と実践的な技能の獲得

目標：

道徳とは何か、道徳的に生きることにどのような意味があるのか、道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
「特別の教科 道徳」の授業理論、教材理解、指導方法、評価について理解し、実践的な授業力や評価する力の基礎を身につけることができる。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP5. 計画・立案力

物事を根本から考え直すことで、課題に気づくことができる。
目標を明確にし、それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論
- ・その他（以下に概要を記述）
模擬授業

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。

成績評価の方法・評価の割合

シャトルシート

30% : 授業内容を正しく理解できているかという観点から評価する。

指導案作成

10% : それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案が作成できているかどうかを評価する。

受講態度

10% : 授業に積極的に参加し、進んで課題に取り組む態度を評価する。

期末試験「筆記」

50% : 授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

文部科学省	・ 中学校学習指導要領	・ 東山書房	・ 2017年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	・ 教育出版	・ 2017年
横山利弘ほか	・ 中学生の道徳 自分を見つめる	・ 廣済堂あかつき	・ 2019年

参考文献等

- ・ 必要に応じて授業の中で配布する。
- ・ 必要なものは授業の中で適時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜2限・昼休み
場所：	研究室（中央館5階）
備考・注意事項：	具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

回	単元名	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し、道徳的に生きることに理解を深める。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	道徳的に生きることの意味 「道徳的に生きることは損だ。それよりも、上手に生きることが大切だ」と考える人がいる。つまり、道徳的に生きることは世知と一致しないというわけである。一方で、私たちは道徳的でない人や行為を非難したり、道徳的な人や行為を称賛したりしている。それはなぜだろうか？この時間は、私たちにとって道徳的に生きることの意味についての理解を深める。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し、道徳的に生きることに理解を深める。	4時間
第2回	価値観の多様化の中の道徳教育の意味は 現在は価値観の多様化の時代である。人はそれぞれの価値観をもち、その価値観に従って判断したり、行動したりしている。このような社会では、人それぞれが自分の価値観をもつことが認められなければならない。そうすると、道徳の問題には答えがないように思われる。果たしてそれは正しいのだろうか？もしも、道徳の問題に答えがないのであれば、人々は法律に触れない以上何をしても構わないのだろうか。この時間は、価値観が多様化する社会における道徳教育はどのように行われるべきかについて考えを深める。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し、価値観が多様化する社会における道徳教育のあり方についての考えを深める。	4時間
第3回	子どもと社会の道徳上の課題と道徳教育 子供たちの道徳的でない姿に関する報道を見ると、私たちは現代の子供は悪くなってきていると考えやすい。では、子供の何が悪くなってきたと考えているのだろうか？そもそも子供の個性や価値観はどのようにして形成されているのだろうか。生まれながらのものであろうか。それとも環境の影響を受けて形成していくものなのだろうか。この時間は、今の日本社会における子供の道徳に関わる問題について話し合いながら、そこでの道徳性の形成について資料をもとに理解を深める。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し、子供の道徳上の問題と道徳性の形成について考えを深める。	4時間
第4回	学習指導要領がめざす道徳教育 『中学校学習指導要領』における道徳教育は「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」によって構成されている。では、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」は、どこが同じで、どこが異なるのか、また、それらは互いにどのように関連し合っているのか。この時間は、『学習指導要領』における道徳教育が、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」から成り立っていることや、それぞれの特徴や機能をもっているのかについて理解する。	『中学校学習指導要領』やノートを用いて復習し、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳」の特質について整理し、記憶する。	4時間
第5回	道徳教育において分かることの意味 道徳教育では「分かること」よりも「感じること」や「意欲を高めること」が重要であると思われがちである。「分かっているけれど実行できない」というのは道徳を考えるときによく聞かれる言葉である。このように、道徳では知ることがあまり重要だとは考えられていない。そして、「知育」「徳育」「体育」と言われるように、徳育は知とは別のものであると捉えられがちである。この時間は、今一度、道徳教育において分かること、理解することの意味について見つめなおし、理解を深める。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し、道徳教育において分かることの意味についての考えを深める。	4時間
第6回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材は本当に物足りないか 「道徳の授業は難しい」と考える先生は少なくない。また、「『特別の教科 道徳（道徳科）の教科書』に載っている教材は言いたいことが見え透いていてつまらない」と考える人たちがいる。確かに、教材を一読するだけでは、何を指導するのか、子供に何に気づかせるのかは分かりにくい。しかし、それは教材の意味を理解していないからであり、教材で何を指導するのかが見つからないからである。この時間は、教材を用いて、それで何を指導するか、道徳の授業でできることが何かについての理解を深める。	講義の内容を教科書や配布資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材理解について考えを深める。	4時間

第7回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業をどのように作るか	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりについて考えを深めるとともに、授業構想を立てる。	4時間
<p>この時間は、実際の教材の一つを取り上げ、それを分析する中で、教材を用いてどのような授業をすればよいかを理解する。そのためには、本時で取り上げる内容項目について子供が授業前から分かっていること、教材を読むだけで分かってしまうことを除外し、子供がまだ知らないこと、気づかせることの意味があることを見つける必要がある。そして、そのことに気づかせるためには授業の中でどのような思考をさせるのか、どのような活動をさせるか等、道徳科の授業づくりについての理解を深める。</p>			
第8回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導案をつくってみよう	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習しながら、「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導案を作成する	4時間
<p>この時間は、前時の教材を用いて各自で学習指導案を作成する。ただし、まだまだ学習指導案のイメージがつかめずに迷っていたり、困っていたりすることが考えられる。そこで、学生同士の交流に加え、指導者からの指導も加えて「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりに取り組ませる。また、次の時間の模擬授業に向けての準備を行う。</p>			
第9回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の模擬授業をやってみよう	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりについての考えを深めるとともに、学習指導案や授業について理解を深める。	4時間
<p>この時間は、前時に作成した学習指導案を用いて、模擬授業をすることで、自分の学習指導案について見なおし課題を見つける。また、それぞれが子供の立場で授業を受けることで、授業についての考えを深める。さらに、複数名が異なった学習指導案で模擬授業をし、それを受けることで、授業についての多様な見方や考え方ができるようにするとともに、共通の課題も明らかにする。</p>			
第10回	前時の模擬授業についての討論会をしよう	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業について考えを一層深める。	4時間
<p>この時間は、これまでの一連の授業づくり、模擬授業をふりかえり、各自が気づいたこと、理解したことを発表し合い討論会をおこなう。そこでの課題などの交流を通して深まった道徳の授業づくりの考えや課題を踏まえ、さらに理解を深めるとともに、新たな課題を発見する。</p>			
第11回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の師範授業を受けてみよう	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業力について考えを深める。	4時間
<p>この時間は、これまで取り組んできた道徳の授業づくりと同じ教材を用いた教師の師範授業を子供の立場に立って受けることをとおして、これまで見えていなかった授業づくりの視点や、授業の進め方のコツなど、授業をする上での様々な視点に気づくことを通して、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深めるとともに、授業力の基礎を身につける。</p>			
第12回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画	講義の内容を『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画について考えを深める。	4時間
<p>この時間は、『中学校学習指導要領』に示された指導計画の意味について理解を深める。特に、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の全体計画」と「特別の教科 道徳の年間指導計画」について、なぜ必要なのか、その形式、意図、留意事項等を理解する。</p>			
第13回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と「特別の教科 道徳（道徳科）」との違い	講義の内容を『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と「特別の教科 道徳（道徳科）」の違い、棲み分けについて考えを深める。	4時間
<p>この時間は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の全体計画をもとに、その特質、教育の場、教育の方法、手だてについて具体的に理解するとともに、学校教育の様々な場面における道徳教育のあり方を理解するとともに、そこではしなくてもよい指導つまり「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導の特質、そして両者の棲み分けについて更に詳しく理解する。</p>			
第14回	道徳教育と「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価について考えを深める。	4時間
<p>「特別の教科道徳」の実施に伴い、児童・生徒指導要録や通知票に、その評価欄が設けられた。しかし、道徳の時間についての評価は十分に理解されておらず、何をどのように評価するのが曖昧である。この時間は、「教育評価とは何か」「道徳科の評価はどのようにすればよいか」「授業評価と子供の評価の違いは」などの観点から、「特別の教科道徳」の評価はどのようにすれば行えるのかについて考える。</p>			

授業科目名	道徳の理論及び指導法（中等）【2019入学生～】				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭（23年），小学校教頭（5年），教育委員会指導主事（2年），小学校長（7年）（全14回）				

授業概要

道徳教育の基盤である道徳の意味や善悪，正しさについての理解をもとに，生徒に道徳教育を行うことの意義を理解させるとともに，「特別の教科 道徳（道徳科）」の特質や指導方法について論じる。その際，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育との違いや関連について論じながら，学級づくり，生徒理解，生徒指導のあり方についても取り上げる。その中で，道徳教育の理論や方法，道徳性の発達について，実際の生徒の姿を具体的に示しながら，教師として求められる姿勢や態度，指導力について論じる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

道徳教育に関する専門的な知識の習得
「特別の教科 道徳」の指導に関する専門的な基礎知識と実践的な技能の獲得

目標：

道徳とは何か，道徳的に生きることにどのような意味があるのか，道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
「特別の教科 道徳」の授業理論，教材理解，指導方法，評価について理解し，実践的な授業力や評価する力の基礎を身につけることができる。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP5. 計画・立案力

物事を根本から考え直すことで，課題に気づくことができる。
目標を明確にし，それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・その他(以下に概要を記述)
模擬授業

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。

成績評価の方法・評価の割合

シャトルシート

30%

評価の基準

： 授業内容を正しく理解できているかという観点から評価する。

指導案作成

10%

： それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案が作成できているかどうかを評価する。

受講態度

10%

： 授業に積極的に参加し，進んで課題に取り組む態度を評価する。

期末試験「筆記」

50%

： 授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

文部科学省	・ 中学校学習指導要領	・ 東山書房	・ 2017年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	・ 教育出版	・ 2017年
横山利弘ほか	・ 中学生の道徳 自分を見つめる	・ 廣済堂あかつき	・ 2019年

参考文献等

- ・ 必要に応じて授業の中で配布する。
- ・ 必要なものは授業の中で適時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 水曜2限・昼休み
 場所： 研究室（中央館5階）
 備考・注意事項： 具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

回	授業内容	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し、道徳的に生きることに理解を深める。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	道徳的に生きることの意味 「道徳的に生きることは損だ。それよりも、上手に生きることが大切だ」と考える人がいる。つまり、道徳的に生きることは世知と一致しないというわけである。一方で、私たちは道徳的でない人や行為を非難したり、道徳的な人や行為を称賛したりしている。それはなぜだろうか？この時間は、私たちにとって道徳的に生きることの意味についての理解を深める。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し、道徳的に生きることに理解を深める。	4時間
第2回	価値観の多様化の中の道徳教育の意味は 現在は価値観の多様化の時代である。人はそれぞれの価値観をもち、その価値観に従って判断したり、行動したりしている。このような社会では、人それぞれが自分の価値観をもつことが認められなければならない。そうすると、道徳の問題には答えがないように思われる。果たしてそれは正しいのだろうか？もしも、道徳の問題に答えがないのであれば、人々は法律に触れない以上何をしても構わないのだろうか。この時間は、価値観が多様化する社会における道徳教育はどのように行われるべきかについて考えを深める。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し、価値観が多様化する社会における道徳教育のあり方についての考えを深める。	4時間
第3回	子どもと社会の道徳上の課題と道徳教育 子供たちの道徳的でない姿に関する報道を見ると、私たちは現代の子供は悪くなってきていると考えやすい。では、子供の何が悪くなってきたと考えているのだろうか？そもそも子供の個性や価値観はどのようにして形成されているのだろうか。生まれながらのものであろうか。それとも環境の影響を受けて形成していくものなのだろうか。この時間は、今の日本社会における子供の道徳に関わる問題について話し合いながら、そこでの道徳性の形成について資料をもとに理解を深める。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し、子供の道徳上の問題と道徳性の形成について考えを深める。	4時間
第4回	学習指導要領がめざす道徳教育 『中学校学習指導要領』における道徳教育は「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」によって構成されている。では、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」は、どこが同じで、どこが異なるのか、また、それらは互いにどのように関連し合っているのか。この時間は、『学習指導要領』における道徳教育が、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」から成り立っていることや、それぞれの特徴や機能をもっているのかについて理解する。	『中学校学習指導要領』やノートを用いて復習し、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳」の特質について整理し、記憶する。	4時間
第5回	道徳教育において分かることの意味 道徳教育では「分かること」よりも「感じること」や「意欲を高めること」が重要であると思われがちである。「分かっているけれど実行できない」というのは道徳を考えるときによく聞かれる言葉である。このように、道徳では知ることがあまり重要だとは考えられていない。そして、「知育」「徳育」「体育」と言われるように、徳育は知とは別のものであると捉えられがちである。この時間は、今一度、道徳教育において分かること、理解することの意味について見つめなおし、理解を深める。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し、道徳教育において分かることの意味についての考えを深める。	4時間
第6回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材は本当に物足りないか 「道徳の授業は難しい」と考える先生は少なくない。また、「『特別の教科 道徳（道徳科）の教科書』に載っている教材は言いたいことが見え透いていてつまらない」と考える人たちがいる。確かに、教材を一読するだけでは、何を指導するのか、子供に何に気づかせるのかは分かりにくい。しかし、それは教材の意味を理解していないからであり、教材で何を指導するのが見つからないからである。この時間は、教材を用いて、それで何を指導するか、道徳の授業でできることが何かについての理解を深める。	講義の内容を教科書や配布資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材理解について考えを深める。	4時間

第7回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業をどのように作るか	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりについて考えを深めるとともに、授業構想を立てる。	4時間
この時間は、実際の教材の一つを取り上げ、それを分析する中で、教材を用いてどのような授業をすればよいかを理解する。そのためには、本時で取り上げる内容項目について子供が授業前から分かっていること、教材を読むだけで分かってしまうことを除外し、子供がまだ知らないこと、気づかせることの意味があることを見つける必要がある。そして、そのことに気づかせるためには授業の中でどのような思考をさせるのか、どのような活動をさせるか等、道徳科の授業づくりについての理解を深める。			
第8回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導案をつくってみよう	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習しながら、「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導案を作成する	4時間
この時間は、前時の教材を用いて各自で学習指導案を作成する。ただし、まだまだ学習指導案のイメージがつかめずに迷っていたり、困ったしていることが考えられる。そこで、学生同士の交流に加え、指導者からの指導も加えて「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりに取り組ませる。また、次の時間の模擬授業に向けての準備を行う。			
第9回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の模擬授業をやってみよう	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりについての考えを深めるとともに、学習指導案や授業について理解を深める。	4時間
この時間は、前時に作成した学習指導案を用いて、模擬授業をすることで、自分の学習指導案について見なおし課題を見つける。また、それぞれが子供の立場で授業を受けることで、授業についての考えを深める。さらに、複数名が異なった学習指導案で模擬授業をし、それを受けることで、授業についての多様な見方や考え方ができるようにするとともに、共通の課題も明らかにする。			
第10回	前時の模擬授業についての討論会をしよう	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業について考えを一層深める。	4時間
この時間は、これまでの一連の授業づくり、模擬授業をふりかえり、各自が気づいたこと、理解したことを発表し合い討論会をおこなう。そこでの課題などの交流を通して深まった道徳の授業づくりの考えや課題を踏まえ、さらに理解を深めるとともに、新たな課題を発見する。			
第11回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の師範授業を受けてみよう	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業力について考えを深める。	4時間
この時間は、これまで取り組んできた道徳の授業づくりと同じ教材を用いた教師の師範授業を子供の立場に立って受けることをとおして、これまで見えていなかった授業づくりの視点や、授業の進め方のコツなど、授業をする上での様々な視点に気づくことを通して、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深めるとともに、授業力の基礎を身につける。			
第12回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画	講義の内容を『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画について考えを深める。	4時間
この時間は、『中学校学習指導要領』に示された指導計画の意味について理解を深める。特に、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の全体計画」と「特別の教科 道徳の年間指導計画」について、なぜ必要なのか、その形式、意図、留意事項等を理解する。			
第13回	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と「特別の教科 道徳（道徳科）」との違い	講義の内容を『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と「特別の教科 道徳（道徳科）」の違い、棲み分けについて考えを深める。	4時間
この時間は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の全体計画をもとに、その特質、教育の場、教育の方法、手だてについて具体的に理解するとともに、学校教育の様々な場面における道徳教育のあり方を理解するとともに、そこではしなくてもよい指導つまり「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導の特質、そして両者の棲み分けについて更に詳しく理解する。			
第14回	道徳教育と「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価について考えを深める。	4時間
「特別の教科道徳」の実施に伴い、児童・生徒指導要録や通知票に、その評価欄が設けられた。しかし、道徳の時間についての評価は十分に理解されておらず、何をどのように評価するのが曖昧である。この時間は、「教育評価とは何か」「道徳科の評価はどのようにすればよいか」「授業評価と子供の評価の違いは」などの観点から、「特別の教科道徳」の評価はどのようにすれば行えるのかについて考える。			

授業科目名	特別活動の指導法（中等）【2019入学生～】				
担当教員名	松田修				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員として、教諭・教頭・教育委員会・校長を務める。 ・特別活動に関わる研究会に所属し、計画・運営に携わり、部長を務める。 				

授業概要

特別活動の教育的な位置づけや役割などについて、学習指導要領の「特別活動の目標・内容」を通して理解できるようにするとともに、特別活動を推進していく上で必要な知識・技能を習得していくことを目的とする。また、特別活動の内容である「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」についての目標や内容などについても理解できるようにする。とりわけ「学級活動」は、「いじめ・不登校などの予防的役割」を果たすことが期待されており、具体的な指導法や実習等も取り上げながら講義を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

具体的内容：

特別活動の内容である学級活動・生徒会活動・学校行事についての理解を深める。

目標：

特別活動の特質である生徒の自発的・自治的活動の在り方や指導法について理解する。

子どもたちを取り巻く急激な社会の変化の中で、今日的な教育課題について理解を深めることができる。

特別活動の重要な視点である「社会参画」「人間関係形成」「自己実現」など、自分なりに自覚し、行動しようとすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。

成績評価の方法・評価の割合

授業への参加度

20%

評価の基準

： 授業内での役割遂行や課題提出、自主的発表など授業参加状況などを評価します。

授業振り返りシート

30%

： 授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価します。

定期テスト

50%

： 授業で行った範囲の中から、授業内容を的確に把握できているかを確認する筆記テストを実施する。

使用教科書

指定する

著者

中園大三郎 他

タイトル

・ 特別活動と総合的学習・探究の理論と指導

出版社

・ 学術研究出版

出版年

・ 2020年

参考文献等

- ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示） 文部科学省
- ・小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年3月告示） 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

テキストをもとに次回学修する内容について予習を行うこと。また、授業後は配布プリントをもとに授業の内容を復習し、理解を確かなものにしておくこと。授業時間外の学修については4時間程度求められている。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に連絡
 場所： 研究室中央館5階
 備考・注意事項： 詳細については、初回の授業時に説明する。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p>特別活動の目標・内容と特質・教育的意義</p> <p>特別活動の目標・内容について理解することを通して、特別活動の特質や教育的意義についての理解を深める。また、他の教科等との関連について学び、特別活動が各教科等の学びを实践につなげたり、全教育活動の基盤となる役割を担ったりしていることを学ぶ。</p>	<p>これまでの特別活動の経験や体験について、具体的な活動について振り返り整理しておく。また、配布プリントをもとに丁寧に本時の復習を行う。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>学級活動の目標と内容</p> <p>学級活動の目標・内容から学級や学校生活をよりよくするために、また、自己の課題を解決するために、課題を見つけ、改善するために話し合い、合意形成や意思決定をしたりして、自主的実践的に取り組む活動であることを具体的な事例を取り上げ理解を深める。</p>	<p>学級活動の目標・内容からどのようなことがわかるのか考えを整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を丁寧に行うこと。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>学級活動(1)(2)(3)における指導方法</p> <p>学級活動(1)(2)(3)において、各々の学習過程をもとに指導法の違いや特質があることを理解するとともに、合意形成や意思決定に至るまでの事前の活動や本時の活動、評価などの具体的なプロセスについて理解を深める。</p>	<p>テキストをもとに学級活動(1)(2)(3)の違いについて調べ、整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を丁寧に行う。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>学級活動における指導案作成の考え方</p> <p>学級活動(1)(2)を例に取り上げ、学級活動の学習指導案についての基本的な考え方や作成の仕方について理解を深める。</p>	<p>テキストをもとに学級活動(1)(2)の学習指導案について概観しておく。また、復習により配付された学習指導案と作成した学習指導案との対比により理解を一層深める。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>学級活動(1)(2)の模擬授業(話し合い活動の実習)</p> <p>学級活動(1)(2)について、事前に決めておいた役割分担(司会・副司会・黒板・ノート書記、担任)や議題・題材に基づき模擬授業(話し合い活動)を行う。</p>	<p>学級活動ノートに本時の議題、題材についての自分の考えを整理しておく。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>生徒会活動の目標と内容</p> <p>生徒会活動の目標・内容、評価などについての理解を深めることを通して、各々の教育的意義や特質、指導方法について学修する。</p>	<p>テキストをもとに、生徒会活動の目標・内容を概観しておくとともに、小学校での委員会の活動について想起しておく。また、配布プリントをもとに復習し、児童会活動並びにクラブ活動についての理解を深める。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>学校行事の目標と内容</p> <p>学校行事の目標・内容、評価などについて理解を深めるとともに、地域との連携をふまえた取り組みなど学校と地域との関係について学修を深める。</p>	<p>テキストをもとに、学校行事の目標・内容と指導法について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、学校行事についての理解を深める。</p> <p>4時間</p>

授業科目名	特別活動の指導法（中等）【2018入学生】				
担当教員名	松田修				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校教諭、教育委員会、校長として勤務。 ・ 特別活動に関わる研究部にて、学級活動・児童・生徒会活動の実践指導を行い、部長を務める（全14回） 				

授業概要

特別活動の教育的な位置づけや役割などについて、学習指導要領の「特別活動の目標・内容」を通して理解できるようにするとともに、特別活動を推進していく上で必要な知識・技能を習得していくことを目的とする。また、特別活動の内容である「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」についての目標や内容などについても理解できるようにする。とりわけ「学級活動」は、「いじめ・不登校などの予防的役割」を果たすことが期待されており、具体的な指導法や実習等も取り上げながら講義を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	特別活動の内容である学級活動・生徒会活動・学校行事についての理解を深める。	特別活動の特質である生徒の自発的・自治的な活動の在り方や指導法について理解する。
汎用的な力 1．DP4. 課題発見 2．DP6. 行動・実践		子どもたちを取り巻く急激な社会の変化中で、今日的な教育課題について探究することができる。 特別活動の重要な視点である「社会参画」「人間関係形成」「自己実現」など、自分なりに自覚し、行動しようとすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ不可とする。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業への参加度	20% : 授業内での役割遂行や自主的発表、諸活動への参加状況などを評価します。
授業振り返りシート	30% : 授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価する。
期末テスト	50% : 授業で行った範囲の中から、授業内容を的確に把握できているかを確認する筆記テストを実施する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
中園大三郎 他	・ 21世紀社会に必要「生き抜く力」を育む 特別活動の理論と実践 —新学習指導要領に対応—	・ 学術研究出版社	・ 2018年

参考文献等

- ・ 中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 東山書房 平成29年6月

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
テキストをもとに次回学修する内容について予習を行うこと。また、授業後は配布プリントをもとに授業の内容を復習し、次回の授業に向けて備えること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に連絡

場所： 研究室中央館5階

備考・注意事項： 具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	<p>オリエンテーション 教育課程における特別活動の位置づけと教育的意義</p> <p>本授業の目標・内容、進め方や評価方法について確認する。また、特別活動の教育課程の位置付けや教育的意義について学ぶ。</p>	<p>これまでの特別活動の経験や体験について、具体的な活動について振り返り整理しておく。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>特別活動の歴史の変遷</p> <p>アメリカの教科外活動に源流をみる特別活動についての流れや日本の特別活動の歴史の変遷を学ぶ。</p>	<p>テキストをもとに、歴史的な変遷について概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントにより復習し、歴史の変遷について理解を深める。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>特別活動の特質と指導原理</p> <p>特別活動の目標や内容、特質などから特別活動で大切にしたい基本や指導原理について学ぶ。</p>	<p>テキストを基に、特別活動の目標や特質、指導の基本などについて概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントをもとに復習し、特別活動の特質や指導原理について理解を深める。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>学級活動① 学級活動の目標・内容と指導法</p> <p>学級活動の目標・内容と指導法について学ぶ。</p>	<p>テキストを基に、学級活動の目標・内容・指導法などについて概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントをもとに復習し、学級活動の目標・内容、指導法について理解を深める。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>学級活動② 学級活動(1)の学習指導案の作成</p> <p>学級活動(1)の学習過程を理解し、学習指導案の作成の仕方について学ぶ。</p>	<p>テキストをもとに、学級活動(1)の指導案について概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントにより復習し、学級活動(1)の指導案作成についての理解を深める。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>学級活動③ 学級活動(2)の学習指導案の作成</p> <p>学級活動(2)の学習過程を理解し、学習指導案の作成の仕方について学ぶ。</p>	<p>授業内容を配布プリントを基に復習し、学級活動(2)の指導案作成の仕方について理解を深める。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>学級活動④ 学級活動の年間指導計画の作成</p> <p>学級活動の年間指導計画の作成について学ぶ。</p>	<p>テキストを基に、学級活動の年間指導計画について概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントで復習し、年間指導計画についての理解を深める。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>学級活動⑤ 学級活動「話し合い活動」の実習</p> <p>学級活動(1)(2)について役割分担を行い、事前に決められた題材について合意形成や意思決定を行うプロセスや方法について学ぶ。</p>	<p>テキストを基に合意形成をするための方法や意思決定を行うための学習の流れについて概要をつかんでおく。また、本日配布のプリントを基に復習しておく。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>生徒会活動の目標・内容と指導法</p> <p>生徒会活動の目標や内容について理解を深めるとともに、生徒会活動の学習過程を通して指導法の在り方について学ぶ。</p>	<p>テキストを基に、生徒会活動の目標・内容及び指導法について概観し、授業内容を確認しておく。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>委員会活動の活動内容や年間指導計画について</p> <p>各委員会の活動内容について考えるとともに年間指導計画の立案について学ぶ。</p>	<p>テキストを基に、委員会活動の年間指導計画を概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントで復習し、委員会活動の年間指導計画についての理解を深める。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>学校行事の目標・内容と指導法</p> <p>学校行事の目標・内容について理解を深めるとともに、学校行事の学習過程を通して指導法の在り方について学ぶ。</p>	<p>テキストを基に、学校行事の目標・内容・指導法について概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントで府k収支、クラブ活動の目標・内容、指導法について理解を深める。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>学級活動⑥ 学級活動「学級集会活動」の実習</p> <p>「ねらい」に応じた集会活動が実施できるように、活動内容の工夫や集会を盛り上げるための取り組みについて考えることができる。</p>	<p>テキストをもとに「学級集会活動」のねらいや目標について概観しておく。また、振り返り表を基に、学級集会の在り方について理解を深める。</p> <p>4時間</p>

第13回	特別活動と部活動	テキストを基に、部活活動の歴史や教育的意義について概観し、授業内容を確認しておく。また、配布プリントで復習し、学校行事の目標・内容、指導法について理解を深める。	4時間
	日本の部活動の起源や教育的意義と課題について学ぶ。		
第14回	特別活動と他の教育活動との関連	テキストを基に、他の教科、生徒指導との関連について概観し授業内容を確認する。また、配布プリントで復習し、他の教育活動との関連について理解を深める。	4時間
	特別活動（学級活動）を「要」とした学級経営の視点から、「特別の教科 道徳」や生徒指導、各教科との関連や役割について学ぶ。		

授業科目名	教育方法論（中等）				
担当教員名	山本はるか				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、学校現場において、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、生徒を指導するための方法・技術を学ぶことを目的とする。具体的には、教育目標・教育内容・教材・教授行為・教育評価の各側面から、授業実践を行う上で基礎となる知識を修得することをめざす。そして、教育現場での実践に生かせるような教育方法の理論的知識や概念、および情報機器の活用などを含めた今日的課題について理解を深め、多様な側面から授業づくりにおける実践的な力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育方法に関する基礎的な考え方・知識	教育方法に関する基礎的な考え方や知識を修得することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	学習指導案の作成と授業実践	教育方法の基本的な考え方や知識を学習指導案の作成と授業実践に活用することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		授業づくりにおいて、教員が直面する課題を見出すことができる。
2．DP5. 計画・立案力		発見した課題の解決に向けて、学習指導案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

小テスト

評価の基準

：教育方法に関する基礎的な知識を修得できているかどうかを判断する。

50%

定期試験（レポート）

：教育方法に関する基礎的な知識を用いて、学習指導案を作成できているかどうかを判断する。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説』東山書房、2018年
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説』
- ・田中耕治編『時代を拓いた教師たち』日本標準、2005年
- ・田中耕治編『時代を拓いた教師たちⅡ』日本標準、2009年
- ・奈須正裕『教師という仕事と授業技術』ぎょうせい、2006年
- ・田中耕治編著『教職教養講座 第5巻 教育方法と授業の計画』協同出版、2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 3限

場所： 研究室（本館5F）

授業計画

		授業外学修課題にかかるとする自らの時間
第1回	オリエンテーション：「教育方法」の範囲、授業を構成する要素 本講義の目標、内容、評価を知る。授業を成立させる要素を知る。	予習シートの作成：行動主義、構成主義 4時間
第2回	教育目標論：教授法・学習観の変遷 教授法・学習観の変遷を知り、教育目標について考える。	予習シートの作成：指導言 4時間
第3回	学習者の学びと教育内容をつなぐ教授行為（1）教師の指導言 教師の指導言の重要性、種類を知る。	予習シートの作成：発問 4時間
第4回	学習者の学びと教育内容をつなぐ教授行為（2）発問の工夫 教師の教授行為のうち、特に「発問」の意義を知り、発問づくりを行う。	予習シートの作成：教育内容、教材 4時間
第5回	学習者の学びを高める教材・教具論（1）教育内容・教材・教具の区別 教育内容・教材・教具について、それぞれの定義を押さえ、区別することの意義を知る。	予習シートの作成：教材解釈、教材開発 4時間
第6回	学習者の学びを高める教材・教具論（2）教材解釈・教材開発 教材解釈と教材開発の違いを知る。学習指導案で使用する教材を開発する。	予習シートの作成：学習形態 4時間
第7回	学びの様式と指導形態（1）学習集団論、学習形態 能力別編成、学び合いの授業などを知る。	予習シートの作成：板書 4時間
第8回	学びの様式と指導形態（2）板書、情報機器の活用 板書の方法、情報機器の活用方法を知る。	予習シートの作成：教育評価 4時間
第9回	教育評価論：目標と評価の一体化、目標に準拠した評価、パフォーマンス評価 教育評価論の歴史と、今求められる評価の考え方や方法を知る。	これまでの学修内容を整理し、テストに備える。 4時間
第10回	中間まとめ、マイクロ・ティーチング・オリエンテーション 授業の導入の意義や目的を知り、導入5分間の授業づくりを行う。	テストの復習をする。マイクロ・ティーチングの構想と練習を行う。 4時間
第11回	マイクロ・ティーチング（1） 5分間の授業導入 5分間の授業導入を行う。	振り返りシートを作成する。 4時間
第12回	マイクロ・ティーチング（2） 分析 前回の振り返りを踏まえて、分析を行う。	振り返りシートを完成させる。 4時間
第13回	学習指導案の作成（1） 教育目標・教育内容の検討 学習指導案を作成するために、教育目標と教育内容を整理する。	学習指導案を作成する。 4時間
第14回	学習指導案の作成（2） 発問・教材の検討、授業展開の練り直し 学習指導案を完成させるために、発問や教材を検討し、授業全体の展開を練り直す。	学習指導案を完成させる。 4時間

授業科目名	生徒・進路指導論（中等）				
担当教員名	中野澄				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校教員、教育委員会指導主事、文部科学省生徒指導調査官、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官として、生徒指導及び進路指導に関する実務や研究に携わる。				

授業概要

学校教育における生徒指導及び進路指導等の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題を含めて学ぶ。また、「いじめ」や「不登校」といった具体的な問題行動および進路指導の事例を取り上げ、問題の理解を深める。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導および進路指導に関する現代的な課題を探究し、実際の教育活動への示唆を得る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

望ましい生徒指導・進路指導のあり方への理解を深め、教育現場での実践に活かすことができるようにする。

目標：

生徒指導・進路指導に関する知識・技能を身につけている。教育現場における生徒指導・教育相談の役割と重要性を理解している。

汎用的な力

1. DP9. 役割理解・連携行動

教職員間・家庭・地域・関係諸機関との連携のありかたについて理解している。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業の参加度

35%

評価の基準

： 授業への積極的参加，グループワークへの貢献度，授業態度などを総合的に評価する。

授業内課題

40%

： ノート及びワークシートの内容を点検し、授業内課題の達成率について評価する。

期末レポート

25%

： 生徒指導・進路指導のそれぞれについてレポートを課す。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省 『生徒指導提要』 2010年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限
 場所： 研究室または教室（授業時間の前後）
 備考・注意事項： 研究室または教室（授業時間の前後）

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	オリエンテーション 生徒指導及び進路指導について、基礎的な知識及び考え方について知る。また、シラバスを活用して、授業の進め方や準備物、評価の観点等について理解する。	学修内容について整理する。この講義に期待すること及び自分の問題意識を整理しておく。 4時間
第2回	教育課程における生徒指導の位置づけ及び生徒指導体制・教育相談体制の違いについて 学校教育において、生徒指導が何を目的としてどのように位置づけられるべきかを理解する。その上で、生徒指導体制と教育相談体制の具体例を示し、目的や構成員の違いについて理解する。	学修内容について整理する。自身の中学校での体験を振り返り、何が生徒指導として行われていたか考えてみる。 4時間
第3回	生徒指導の理論と手法 集団指導（1）各教科・道徳教育における生徒指導のあり方と進め方 各教科・道徳教育における生徒指導のあり方について探求することで、日常的な教育活動の中で生徒指導の機能がどのようにいかされるべきかを理解する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、様々な教育活動における生徒指導のあり方について文献にあたる。 4時間
第4回	生徒指導の理論と手法 集団指導（2）総合的な学習の時間における生徒指導のあり方と進め方 総合的な学習の時間において、「居場所づくり」と「絆づくり」の違いを理解し、児童生徒の自主性をいかす生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、報道等で取り上げられる子供にまつわる学校等の対応事例について、人権の視点から対応を考えてみる。 4時間
第5回	生徒指導の理論と手法 集団指導（3）特別活動における生徒指導のあり方と進め方 「集団によって個が育つ」ことを深く理解するとともに、設定された場面における自尊感情の育成を意識した生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめる。 4時間
第6回	生徒指導の理論と手法 個別指導（1）家庭・地域・関係機関と連携した対応の重要性と進め方 いじめ認知件数、不登校児童生徒数、暴力行為発件数の全国的な状況を理解するとともに、具体的な事例も取り上げながら、児童生徒の最善の利益のための家庭・地域・関係機関との連携の必要性を理解し、具体的な進め方を考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、教育実習校に関連する関係機関の場所を調べる。 4時間
第7回	生徒指導の理論と手法 個別指導（2）教員と専門職との日常的な連携の目的や進め方 今後、さらに進むであろうスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の配置拡充を意識し、教員と専門職との連携の重要性について、具体的な事例も取り上げながら理解する。合わせて、専門職の特性をいかした教育相談体制のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、専門職の資格や役割についてさらに調べる。 4時間
第8回	実践事例研究（1）いじめへの対応、「学校いじめ防止基本方針」の目的・内容の理解 実際の「学校いじめ防止基本方針」を収集しその内容を比較しながら、いじめの対応に関する基本的な考え方、専門職の活用、関係機関との連携のあり方について理解し、その内容をまとめる。グループワークを行う。	「学校いじめ防止基本方針」の事例を収集し、学修内容を踏まえて、内容の読み込む。 4時間
第9回	実践事例研究（2）不登校への対応、集団指導と個別支援の方法原理 国の動向も踏まえつつ、不登校対策を3つの視点に分けて、個別指導と集団指導の重なる具体的な事例や個別指導に必要な視点について理解する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、様々な自治体や学校におけるチーム学校の構成員を調べる。 4時間
第10回	実践事例研究（3）暴力行為及び今日的な課題への対応、生徒指導に関する法令内容の理解 生徒指導に関する法令を知り、それが学校現場ではどのように反映されるのかについて、暴力行為や児童虐待、ネット上のトラブル等の対応事例をもとに考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、体罰に関する報道等を調べまとめる。 4時間
第11回	キャリア教育・進路指導の理論と進め方 学校現場におけるキャリア教育・進路指導が学校全体の中でどのように位置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知ると同時に、どのような児童生徒観をもとに何を目標として実践されているかについて理解する。	学修内容について整理する。自身の中学校での体験を振り返り、何がキャリア教育・進路指導として行われていたか考えてみる。 4時間
第12回	職業に関する体験活動を核としたカリキュラム・マネジメントの意義 学校が地域と連携して取り組む体験活動の事例をもとに、事前事後学習の方法について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。学校のHP等から職業体験に関する事例を収集する。 4時間
第13回	ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育、キャリアカウンセリングの考え方 進路指導・キャリア教育の方法として、全生徒を対象としたガイダンスとしての指導のあり方を理解する。進路指導・キャリア教育の方法として、個別の課題に向き合うカウンセリングとしての指導の在り方を理解する。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、不登校児童生徒に関するチーム学校について事例を調べる。 4時間

第14回

キャリアカウンセリングの方法、まとめ —理論と実践の統合を図るために

進路指導・キャリア教育の方法として、個別の課題に向き合うカウンセリングとしての指導を具体的に考える。これまでの学修内容を振り返り、望ましい生徒指導及び進路指導のあり方について考究する。

学修内容について整理する。自身の中学校での体験を振り返り、進路相談の中でどんなカウンセリングが行われていたか考えてみる。生徒指導・進路指導について学んだ内容を整理しレポートする。定期試験にむけて14回の授業全体から学んだことを復習する。

4時間

授業科目名	学校教育相談（中等）				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校教諭として14年間勤務の後、教育委員会にて教育相談・適応指導教室担当として7年間従事。その後、公立中学校スクールカウンセラーを続けている。【全14回】				

授業概要

教育相談は、教育上の心理的な諸問題に対する援助活動で、学校で行われるものと教育相談機関で行われるものがある。本科目は、前者における子どもや保護者の指導・援助に資する理論とスキルの習得を目指す。その意義や担うべき役割を問題解決的・予防的・開発的機能を踏まえ、個と集団の両面から授業を展開する。予防的・開発的教育相談の集団体験や個別面接のロールプレイを通じて教育相談の基礎を体得する。あわせて、いじめや不登校、学級経営、発達に課題のある子どもへの支援、家庭や他機関との連携についても理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育相談に関する基本的な事項の理解	教育相談に対する関心を深め、基本的な事項を説明することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育相談に関する基本的なスキルの習得	教育相談に関する習得したスキルをロールプレイ等を通じて示すことができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		学校教育相談に関して、今日的な課題を見出すことができる。
2．DP8. 意思疎通		授業内の演習で内省した事柄を適切に自己開示することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、成績は不可とする。

成績評価の方法・評価の割合

授業内テスト

評価の基準

： 授業内に実施する基礎的事項に関するテストにより評価する。

10%

課題ワークシート

： 授業内に課した課題に関するレポートにより評価する。

60%

ロールプレイ、課題プレゼンテーション等

： 授業内に実施するロールプレイやプレゼンテーションにより評価する。

25%

定期試験（レポート）

： 授業で示された課題についてレポートし、指定された期間内に提出する。

5%

使用教科書

指定する

著者

米田薫

タイトル

・ 『改訂版 厳選 教員が使える5つのカウンセリング』

出版社

・ ほんの森出版

出版年

・ 2019年

参考文献等

・日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編・中級編」 図書文化 2013年

他は授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2時間目

場所： 中央館 5階127

備考・注意事項： 質問はEメール (yoneda@osaka-seikei.ac.jp)でも対応する。件名に「学校教育相談：質問：〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	教育相談とは 教育相談の定義、領域と内容 歴史と展開、学校教育相談の特質と学校内の体制について学びます。	4時間
第2回	教育相談の基礎 学校教育相談に用いられる諸理論とアセスメントについて学びます。	4時間
第3回	集団対象の教育相談（1）—自己理解をテーマとする構成的グループエンカウンター 構成的グループエンカウンターの自己理解を深めるエクササイズを体験します。	4時間
第4回	集団対象の教育相談（2）—自己受容を深める構成的グループエンカウンター 構成的グループエンカウンターの自己受容をテーマとするエクササイズを体験します。	4時間
第5回	集団対象の教育相談（3）—ソーシャルスキル教育 人間関係形成・問題解決・感情コントロールをテーマとするソーシャルスキル教育について学び、その発展形であるSELについても触れます。	4時間
第6回	個別面接の基本（1）—非言語的側面 個別面接の際のポイントとなる非言語的側面について学びます。	4時間
第7回	個別面接の基本（2）—言語的側面 個別面接の際のポイントとなる言語的側面について学びます。	4時間
第8回	個別面接の基本（3）—模擬面接 個別面接の基本として学んだ事項を模擬面接を通じてスキルを磨きます。	4時間
第9回	発達と学習についての理解と対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	4時間
第10回	不登校についての理解と対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	4時間
第11回	いじめ・反社会的行動についての理解と対応 テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	4時間
第12回	特別支援教育について テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	4時間
第13回	キャリア教育とキャリアカウンセリング テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	4時間
第14回	教育相談の現状と展望 チーム援助、外部機関との連携、保護者支援、危機対応について学びます。	4時間

授業科目名	教育実習事前事後指導				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務(全14回)				

授業概要

本科目では、教育実習に向けて必要な基本事項と心構え、学校現場の組織・服務上の注意等についての学習を行います。また、実習時の指導案を作成することを通して実習に対する目的を明確にします。さらに、受講者全員の教育実習での美術科授業シミュレーションを実施し、美術科授業運営についてグループで討議します。その後全体で討議を行い、授業内容の改善を図ります。教育実習終了後は、受講者全員が実習時に行った授業を紹介し、全体で振り返りを行い成果と課題、反省点について討議し総まとめを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP6. 行動・実践

具体的内容：

教育実習において必要な知識、技能の習得

目標：

目標に対して授業を適切に計画し、実行できる。

教育実習において授業を指導教員の指導のもとにおこなう。自ら学ぼうとする意欲と態度
実習授業および研究授業を指導教員の指導のもとにおこない、自ら学ぼうとする意欲と態度を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ デイバート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、成績評価を「不可」とします。
各評価項目の到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

講義への参加の度合い

30%

授業内での模擬授業

50%

試験（レポート）

20%

評価の基準

： 教育実習への意欲と心構えを持ち、適切な美術科指導案を作成できているか。討議時には、自分の意見を述べるだけでなく、他者の意見に耳を傾けることができているかを評価する。

： 学習目標に則した授業を計画し、実行できているか、自ら学ぼうとする意欲と態度を持っているかを評価する。

： 教育実習の成果と課題をレポートとしてまとめる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
 『美術資料 大阪府版』京都市立芸術大学美術教育研究会編集、秀学社
 『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆眞、福本謙一、茂木一司 建帛社
 『中学校学習指導要領解説 美術編』 文部科学省
 『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4時間目
 場所： 南館2階情報デザイン研究室

授業計画

		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	教育実習の目標・意義および心得 授業の目的、授業計画、内容紹介 授業評価について 教育実習の目標・意義を理解する。教育実習に向けて具体的な教材開発のための準備を行います。本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明します。	教育実習の目標・意義について理解し、具体的な教材開発の準備を行う。 2時間
第2回	教育実習事前指導 教育実習の目標・心構え 教育実習の目標が理解でき、適切に心構えができるように解説します。 また、学生の主体的意見交換により、理解を深めます。	教育実習の目標と心構えを整理し、理解が深まるようにする。 2時間
第3回	教員組織・運営・サービス上の注意点 学校現場の組織・運営・サービス上の注意点を理解できるようにします。	学校現場の組織・運営・教員のサービスについてまとめる。 2時間
第4回	授業の事例研究 教育実習に向けて具体的な授業準備をします。	授業計画、指導案を作成する。 2時間
第5回	教育実習授業と討議 (1グループA) 教育実習に向けての具体的な授業準備をします。	授業計画、指導案を作成する。 2時間
第6回	教育実習授業と討議 (2グループB) 模擬授業案の討議を行う。	模擬授業案の再検討をおこなう。 2時間
第7回	教育実習授業と討議 (3グループC) 教育実習に向けて具体的な授業の準備を行います。	授業目標に合った授業指導案を作成する。 2時間
第8回	教育実習授業と討議 (4グループD) 教育実習に向けての問題点の検討を行います。	授業の課題点を整理する。 2時間
第9回	教育実習実践演習 (1グループA) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討します。	模擬授業の振り返りを整理する。 2時間
第10回	教育実習実践演習 (2グループB) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討します。	模擬授業の振り返り、自分ができていないことは何かをまとめる。 2時間
第11回	教育実習実践演習 (3グループC) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討します。	適切な授業計画を作成する。 2時間
第12回	教育実習実践演習 (4グループD) 模擬研究授業 授業の展望と課題を相互に検討します。	適切な授業計画を作成する。 2時間
第13回	事後指導・個別の実習についての検討 実習の反省・成果について検討し整理します。	実習日誌の整理と実習校に礼状を書く。 2時間
第14回	事後指導・教育実習のまとめ 教育実習のまとめ、改善課題、気づいたことを整理します。	自分自身の教育実習を振り返りまとめる。 2時間

授業科目名	教育実習事前事後指導（中等）【2018年入学生】				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	3・4年	開講時期	3年後期・4年前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育実習の効果を最大限に得られるようにするためにこの授業は構成されている。事前指導では、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。具体的には、教育実習への参加手続き、教育実習の目的・目標・意義、実習参加の心得、実習の流れ、個人情報取り扱い、実習参加の留意事項など、実習生として現場において必要な各種のスキルを学ぶ。また、学習指導案を作成して模擬授業を実施した後、授業運営についてディスカッションすることで、授業設計に関する能力を確認する。事後指導では、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、発表会で互いの教育実習での学びを共有し、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

教育実習において必要なスキル等の獲得

目標：

授業を目標に対して適切に計画し、実行できるようになること

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力

目標に呈して適切に計画する力

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内での模擬授業	70%	： 目標に対して、適切に授業を計画し、実行できているか。
模擬授業における指導案作成	30%	： 適切に授業計画を作成できているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 4 限
 場所： 西館 4 階研究室
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

授業外学修課題にかかるとの目安の時間

第1回	教育実習の目標・意義および心得 教育実習の意義を学びます。	教育実習に行く意義を考えておく。	1時間
第2回	教員組織・服務上の注意点等 教員がどのような集団で活動するかを学びます。	組織の中でどのような行動が求められるか考えておく。	1時間
第3回	一般教養・マナー等 教育実習に行った際のマナーを学びます。	実習生として、どのような行動がふさわしいかを考えておく。	1時間
第4回	授業研究 1 学習指導案の作成 教育実習に向けた学習指導案を作成します。	指導案を準備する。	1時間
第5回	授業研究 2 学習指導案の発表 学習指導案を発表しあって、学びます。	指導案を準備する。	1時間
第6回	事前指導面談 教育実習にあたって、それぞれの注意点をディスカッションします。	教育実習にむけて不安な点を抽出しておく。	1時間
第7回	模擬授業とディスカッション 1 模擬授業を行い、その内容をディスカッションします。	受講生の模擬授業を分析しておく。	1時間
第8回	模擬授業とディスカッション 1 模擬授業を行い、その内容をディスカッションします。	受講生の模擬授業を分析しておく。	1時間
第9回	模擬授業とディスカッション 3 模擬授業を行い、その内容をディスカッションします。	受講生の模擬授業を分析しておく。	1時間
第10回	模擬授業の振り返り 模擬授業全体を振り返り、自分に足りないことは何かを学びます。	受講生の模擬授業を分析しておく。	1時間
第11回	教育実習体験発表 1 先輩の教育実習の体験を聞いてディスカッションをします。	教育実習の体験をまとめておく。	1時間
第12回	教育実習体験発表 2 先輩の教育実習の体験を聞いてディスカッションをします。	教育実習の体験をまとめておく。	1時間
第13回	教育実習評価について 教育実習における評価について、自身の課題と実習での目標を確認します。	教育実習の評価票の各事項を確認しておく。	1時間
第14回	求められる教員像について 求められる教員像についてについて学びます。	教員採用に係る情報から求められる教師像を調べておく。	1時間
第15回	まとめ 教育実習を通して、教職力がどのように身についたかを考察します。	教育実習で何を学習したかをまとめておく。	1時間

授業科目名	教育実習事前事後指導（中等）				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	3・4年	開講時期	3年後期・4年前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえで
の能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験
的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するととも
に、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

教育実習生として遵守すべき義務

目標：

教育実習生として遵守すべき義務等について理解している

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。

- 2 . DP10. 忠恕の心

教育実習生の責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業における課題	40%	： 教育実習生として遵守すべき義務等に関して、自身の考えが的確に示されているか等から評価します。
課題レポート（事前指導）	30%	： 教育実習生の責任を的確に記述できるか、教育実習参加に対する意欲的な表現があるか、またそれらの具体性等から評価します。
課題レポート（事後指導）	30%	： 教育実習の知識と経験を基にあげた自身に必要な知識や技能等の的確さ、具体性等から評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配付します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 4 限

場所： 西館 4 階研究室

備考・注意事項： 必要に応じて個別の実習学生ごとに実習開始前の事前指導、実習終了後の事後指導を個別に行います。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	<p>事前指導：教育実習の目的・意義、教育実習に向けた課題の確認</p> <p>教育実習への参加手続き状況、教育実習の目的・意義を確認します。 履修カルテを用いて自身の学びを確認し、教育実習までに克服する課題を確認します。</p>	<p>予習：「教育実習Ⅰ・Ⅱ」と「教育実習事前事後指導」のシラバスを一読しておいてください。履修カルテの記載事項を確認しておいてください。復習：自身の課題克服に関する計画を作成してください。</p> <p>1時間</p>
第2回	<p>事前指導：教育実習参加の心得・服務上の注意点、学校組織・運営</p> <p>教育実習生として遵守すべき事項、個人情報の取り扱い、実習参加の留意事項、社会人としての基本（挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など）が身につけているかを確認します。 学校組織・運営の特徴、校務分掌に関する学びを振り返り、学校組織の一員として行動するために必要な資質能力を確認します。</p>	<p>予習：学校組織・運営、校務分掌に関する教職課程の授業の資料を読み返しておいてください。復習：学校組織マネジメントとはどうあるべきか学校組織の現状と課題を踏まえて論じてください。</p> <p>1時間</p>
第3回	<p>事前指導：実習先の求める教師像</p> <p>教員採用に係る情報から教育実習先の自治体の求める教師像を確認し、自身の課題を見出します。</p>	<p>予習：教育実習先の教員採用に係る情報を確認しておいてください。復習：求める教師像に対する自身の課題を克服する計画を作成してください。</p> <p>1時間</p>
第4回	<p>事前指導：教育実習参加体験の聴講</p> <p>学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等に関する先輩の教育実習の体験を聞いて、教育実習の具体的な内容を確認します。</p>	<p>予習：教育実習参加での学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等について、不明な点・疑問点を整理しておいてください。復習：教育実習参加体験の聴講して、学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等について自身の実習に活かせる点を整理しておいてください。</p> <p>1時間</p>
第5回	<p>事前指導：教師のICT活用指導力、授業理論の活用</p> <p>電子黒板やデジタル教科書の活用など、授業におけるICTの活用方法を確認します。 授業理論の紹介・実践を通じて、様々な学習活動と適切にたでの共有を行います。</p>	<p>予習：選択した授業理論について調べておいてください。復習：ICT活用の注意点をまとめてください。授業で紹介された授業理論の他、模擬授業担当単元で活用できる授業理論がないか調べてください。</p> <p>1時間</p>
第6回	<p>事前指導：学習指導案の作成方法</p> <p>事例指導案を用いて、指導案作成の意義、必要とされる項目、および授業における活用方法について確認します。</p>	<p>予習：配布した事例指導案集を一読しておいてください。復習：配布した事例指導案集の項目とwebページ等で見つけることができる指導案の項目を比較し、項目の有無を確認してください。</p> <p>1時間</p>
第7回	<p>事前指導：模擬授業の実施と授業改善についての議論1（グループA）</p> <p>生徒役が指導案を確認した後、グループAの教師役による模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。</p> <p>1時間</p>
第8回	<p>事前指導：模擬授業の実施と授業改善についての議論2（グループB）</p> <p>生徒役が指導案を確認した後、グループBの教師役による模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。</p> <p>1時間</p>

第9回	<p>事前指導：模擬授業の実施と授業改善についての議論3（グループC）</p> <p>生徒役が指導案を確認した後、グループCの教師役による模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。</p>	1時間
第10回	<p>事前指導：模擬授業の実施と授業改善についての議論4（グループD）</p> <p>生徒役が指導案を確認した後、グループDの教師役による模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。</p>	<p>予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。</p>	1時間
第11回	<p>事前指導：教育実習に対する責任・参加意欲・自己評価</p> <p>教育実習生としての使命感や責任感、教育的愛情等について確認します。</p>	<p>予習：教師の心得に関する教職課程の授業の資料を読み返しておいてください。復習：課題レポート（事前指導）を作成・提出してください。</p>	1時間
第12回	<p>事前指導：教育実習直前課題の確認</p> <p>履修カルテを用いて教育実習直前の自身の学びを確認し、教育実習における課題と目標を作成します。実習記録について、事前の記入事項を記入方法、実習中に記入する各項目の書き方を確認します。</p>	<p>予習：履修カルテの記入事項を確認しておいてください。復習：実習記録の事前記入項目を記入してください。</p>	1時間
第13回	<p>事後指導：教育実習参加体験の発表</p> <p>学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等に関する教育実習参加体験を発表し、実習体験を共有することで、自己の体験を相対化してその特徴を検討します。</p>	<p>予習：学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等に関する体験を整理しておいてください。復習：学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等に関する自身と他の実習生の実習の違いを検討してください。</p>	1時間
第14回	<p>事後指導：教育実習を終えての省察、授業のまとめ</p> <p>教育実習における事後の手続きについて確認します。履修カルテを用いて、これまでの教職課程の授業で学んだことが教育実習でどのように生かされたかを確認します。また、教育実習を通して習得した資質能力を確認し、またどのような課題が残ったかを整理します。</p>	<p>予習：履修カルテの各科目の「教育実習を終えて」欄を記入し、教育実習を通して習得した資質能力を確認してください。復習：教育実習における諸手続き等の遂行状況を確認しておいてください。課題レポート（事後指導）を作成・提出してください。</p>	1時間

授業科目名	教育実習Ⅰ/教育実習Ⅱ				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	3、4年	開講時期	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

本科目では、実習校による教育実習プログラムが中心となります。教育実習を有意義なものとするために、事前学習として既習事項の再確認を行います。実習直前に実践的な学習を行うことによって、教育実習の心得を習得し、教育実習において必要な事項の準備を行います。また、実習校における教育実習においては、観察・授業実践・生徒との対応・特別活動への参加などにより、既習内容を体験し、教師にとって必要な態度、知識・技術等資質の向上が図れるようにします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP7. 完遂
3. DP9. 役割理解・連携行動

具体的内容：

教育実習のための能力の育成

目標：

教育実習の意義、目的を理解し主体的に実習に取り組むことができる。

実習の持つ意味を理解し実践できる。

3週間の教育実習を責任もって完遂することができる。

実習生の役割を理解し、学校運営に関わることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

教育実習は原則として1回でも欠席があると単位が認められません。体調を万全に整え、実習に臨むこと。欠席があると放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

教育実習先および指導教員からの評価 : 教育実習に対して、適切な実習の実践と準備ができたか。
100%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

教育実習は出席厳守。
教育実習Ⅰ・Ⅱは学外実習科目のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。
本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。
実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4時間目
 場所： 南館2階情報デザイン研究室

授業計画

第1回

教育実践への観察・参加・実習

教育実習先の教師の指導のもと、次の観察・参加・実習を中心に大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を実践し、教育実習校の生徒の実態とこれを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。

- ・生徒や学習環境等に対して適切な観察を行います。
- ・学校実務に対する補助的な役割を体験します。
- ・各教科や教科外活動の指導の実践を試みます。

実習校の指導教員の指示に従って真摯に取り組む。

授業外学修課題にか
 かる目安の時間

90時間

授業科目名	教育実習 I (商業)				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育実習は、大学での理論研究を学校で総合的に実証研究すると同時に、生徒等への接し方や学校での教諭や職員の教育的実践や専門性を具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、高等学校生徒の成長発達の様子や教員としての職務の一端に触れ教職についての理解を深める。また、教科の指導、学習指導案の作成、教員の指導の様子の観察などを通して教育実践力を持てるようにする。さらに、生徒理解をはじめとする生徒への接し方や学級経営の基本について、実際に体験し教職に対する理解を確かなものとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

学校経営方針、特色ある教育活動、学校の組織体制など
 話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮、情報機器を活用など

目標：

実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
 学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力
- 3 . DP8. 意思疎通
- 4 . DP9. 役割理解・連携行動

生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
 指導教員等の実施する授業を視点をもって観察し、事実即して記録することができる。
 学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
 教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わることができる。
 学級担任・教科指導教員等の補助的な役割を担うことができる。
 学級担任・教科指導教員等の学級や学習集団づくりにおける役割と職務内容を实地に即して理解している。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ eラーニング、反転授業
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ デイバート、討論
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・ 見学、フィールドワーク
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

学外実習のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。
 本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

成績評価の方法・評価の割合

教育実習先からの成績報告票

80%

教育実習記録簿

20%

評価の基準

: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導について評価される

: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導に対する的確さ等から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実習中に提示される参考文献等を活用し、教材研究を進めてください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れるてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4限

場所： 西館4階研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>教育実践への観察・参加・実習</p> <p>教育実習先の教師の指導のもと、次の観察・参加・実習を中心に大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を実践し、教育実習校の生徒の実態とこれを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒や学習環境等に対して適切な観察を行います。 ・学校実務に対する補助的な役割を体験します。 ・各教科や教科外活動の指導の実践を試みます。 	90時間
第2回		時間
第3回		時間
第4回		時間
第5回		時間
第6回		時間
第7回		時間
第8回		時間
第9回		時間
第10回		時間
第11回		時間
第12回		時間
第13回		時間
第14回		時間
第15回		4時間
第16回		4時間
第17回		4時間

授業科目名	教育実習 I (社会・公民)				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	4年生	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育実習は、大学での理論研究を学校で総合的に実証研究すると同時に、生徒等への接し方や学校での教諭や職員の教育的実践や専門性を具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、中学校・高等学校生徒の成長発達の様子や教員としての職務の一端に触れ教職についての理解を深める。また、教科の指導、学習指導案の作成、教員の指導の様子を観察などを通して教育実践力を持てるようにする。さらに、生徒理解をはじめとする生徒への接し方や学級経営の基本について、実際に体験し教職に対する理解を確かなものとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学校経営方針、特色ある教育活動、学校の組織体制など	実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮、情報機器を活用など	学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。指導教員等の実施する授業を視点をもって観察し、事実に即して記録することができる。
2 . DP5. 計画・立案力		学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
3 . DP8. 意思疎通		教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わることができる。
4 . DP9. 役割理解・連携行動		学級担任・教科指導教員等の補助的な役割を担うことができる。学級担任・教科指導教員等の学級や学習集団づくりにおける役割と職務内容を实地に即して理解している。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

学外実習のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。
本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

成績評価の方法・評価の割合

教育実習先からの成績報告票

80%

教育実習記録簿

20%

評価の基準

: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導について評価される

: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導に対する的確さ等から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実習中に提示される参考文献等を活用し、教材研究を進めてください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れるてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4限

場所： 西館4階研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>教育実践への観察・参加・実習</p> <p>教育実習先の教師の指導のもと、次の観察・参加・実習を中心に大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を実践し、教育実習校の生徒の実態とこれを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒や学習環境等に対して適切な観察を行います。 ・学校実務に対する補助的な役割を体験します。 ・各教科や教科外活動の指導の実践を試みます。 	90時間
第2回		時間
第3回		時間
第4回		時間
第5回		時間
第6回		時間
第7回		時間
第8回		時間
第9回		時間
第10回		時間
第11回		時間
第12回		時間
第13回		時間
第14回		時間
第15回		4時間

授業科目名	教育実習Ⅱ（社会・公民）				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育実習は、大学での理論研究を学校で総合的に実証研究すると同時に、生徒等への接し方や学校での教諭や職員の教育的実践や専門性を具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、中学校・高等学校生徒の成長発達の様子や教員としての職務の一端に触れ教職についての理解を深める。また、教科の指導、学習指導案の作成、教員の指導の様子を観察などを通して教育実践力を持てるようにする。さらに、生徒理解をはじめとする生徒への接し方や学級経営の基本について、実際に体験し教職に対する理解を確かなものとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

学校経営方針、特色ある教育活動、学校の組織体制など
 話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮、情報機器を活用など

目標：

実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
 学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP5. 計画・立案力
- 3．DP8. 意思疎通
- 4．DP9. 役割理解・連携行動

生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
 指導教員等の実施する授業を視点をもって観察し、事実に即して記録することができる。
 学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
 教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わる事ができる。
 学級担任・教科指導教員等の補助的な役割を担うことができる。
 学級担任・教科指導教員等の学級や学習集団づくりにおける役割と職務内容を实地に即して理解している。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

学外実習のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。
 本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

成績評価の方法・評価の割合

教育実習先からの成績報告票

80%

教育実習記録簿

20%

評価の基準

: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導について評価される

: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導に対する的確さ等から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実習中に提示される参考文献等を活用し、教材研究を進めてください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れるてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 4 限

場所： 西館 4 階研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第回	<p>教育実践への観察・参加・実習</p> <p>教育実習先の教師の指導のもと、次の観察・参加・実習を中心に大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を実践し、教育実習校の生徒の実態とこれを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒や学習環境等に対して適切な観察を行います。 ・学校実務に対する補助的な役割を体験します。 ・各教科や教科外活動の指導の実践を試みます。 	90時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		時間
第回		4時間

授業科目名	教職実践演習（中学校、高等学校）				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

本科目では、教育実習の体験をもとに、教師として教育現場で勤務することに対する課題とその解決方法を検討します。具体的には、教師としての実践的な応用力を身につけるために、教育実習の振り返りを項目ごとに分け理解を深めたり、検証したりします。また、各回異なる題材設定による授業研究を通して、成果と課題を学生どうしで討論します。さらに、外部講師を招聘した講義も設定しており、学校現場の実態や、教師に求められる資質について、実践的な知識を習得する機会となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 教職についての意識
教育実習の振り返り

目標：

教育実習を通して学んだこと、および自分の課題を客観的に認識できている。
教育実習で行った授業や各種取り組みについてわかりやすくプレゼンテーションができる。

汎用的な力

- 1．DP4. 課題発見
- 2．DP6. 行動・実践
- 3．DP8. 意思疎通

自分が教師として足りないものは何か、自己分析できる。
教育実習の授業を再現する際、適切な準備ができています。
教育実習の振り返りにおいて、他の学生の例についても興味をもって意見を述べ合うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。各評価項目の到達状況を、評価基準に沿ってどのレベルまで到達しているか測り以下の4段階で評価します。
S：設定した目標以上の到達状況である
A：十分満足できる
B：概ね満足できる
C：設定した目標に達しない

成績評価の方法・評価の割合

プレゼンテーション

40%

ディスカッション

20%

教職カルテ

評価の基準

：教育実習の振り返りにおいて、模擬授業や授業研究などのプレゼンテーションが適切にできる。

：教育実習の振り返りにおいて、他の学生のプレゼンテーションに興味を持ち、積極的に討議に参加し意見を述べることができる。

：教職カルテを完成させる過程を通して、自己の課題を認識・分析でき、自分がめざす教師像を描くことができる。

試験（レポート提出） 20%
 : 実践的に学んだ教育の課題と成果についてレポートにまとめる。
 20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
 『美術科教育の基礎知識』編著 福田隆眞、福本謹一、茂木一司 建帛社
 『中学校学習指導要領解説 美術編』 文部科学省
 『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編』 文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日4時間目
 場所： 南館2階情報デザイン研究室

授業計画

		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>授業の目的、授業計画、内容紹介 授業評価について 教職カルテの確認</p> <p>授業形式と授業内容の確認、および諸注意についての説明を行う。教職カルテの記入状況を各自が確認し、教育実習終了時まで記入します。 本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明します。</p>	<p>予習：教職カルテの準備。復習：授業全体の計画を確認して準備する。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>教育実習の振り返り①—生徒観—</p> <p>教育実習を通して、生徒たちとどのように向き合ってきたのか、各自の報告をもとに話し合いながら振り返ります。</p>	<p>予習：プレゼンテーションの準備をする。復習：実習の成果と課題について自己分析する。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>教育実習の振り返り②—題材観—</p> <p>それぞれの学校現場で、教科内容はどのようなものであったかを振り返りながら、美術科の題材開発について理解を深めます。</p>	<p>予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が扱った題材について再検証する。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>教育実習の振り返り③—指導目標と評価基準—</p> <p>学習指導案で立てた指導目標や評価基準が、実際授業を通して生徒に伝わったか、成果の有無を含めて話し合います。</p>	<p>予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた目標について再検証する。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>教育実習の振り返り④—指導計画—</p> <p>教育実習の際にどのような指導計画を立てたか、またそれは実行できたか。成果と反省点を話し合います。</p>	<p>予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた指導計画について再検証する。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>教育実習の振り返り⑤—生徒指導—</p> <p>実習中の生徒指導、またその他の教師の仕事について、各自の体験をもとに話し合います。</p>	<p>予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた指導計画について再検証する。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>外部講師による講義</p> <p>学校教育の現場で起こる諸問題について、外部講師の方に講義していただきます。経営学部の『教職実践演習』との合同授業を実施します。</p>	<p>教師という職業に対する自分の考えをレポートにまとめる。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>外部講師による演習</p> <p>外部講師の方を交えて、教師に求められる資質について話し合います。経営学部の『教職実践演習』との合同授業を実施します。中間ルーブリックの実施、学生ヘフィードバックします。</p>	<p>教師に求められる資質について、自分の考えをレポートに書く。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>事例研究・ロールプレイング(1) 事例の交流と発表 準備</p> <p>事例の検討やロールプレイングなどを通して、現在の教育問題から、把握しておくべき点について学びます。</p>	<p>予習：興味のある現在の教育問題に関する記事を収集し、要約しておいてください。復習：授業であげられた教育問題への対応について、自身の課題をあげ、まとめてください</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>事例研究・ロールプレイング(2) 発達障害を持つ生徒との関わりについて</p> <p>事例の検討やロールプレイングなどを通して、子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができるようになる。</p>	<p>予習：事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。復習：ロールプレイングの反省点などをあげ、自身の課題をまとめてください。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>例研究・ロールプレイング(3) いじめ・不登校の生徒への関わりについて</p> <p>事例の検討やロールプレイングなどを通して、いじめ・不登校などの問題と学級経営に必要な個々の子どもの特性や状況に応じた対応を修得しているかを確認します。</p>	<p>予習：事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。復習：ロールプレイングの反省点などをあげ、自身の課題をまとめてください。</p> <p>4時間</p>

第12回	<p>事例研究・ロールプレイング(4) 保護者との関係と教師の対応について</p> <p>事例の検討やロールプレイングなどを通して、保護者や地域の関係者と良好な人間関係構築の重要性を理解しているかを確認します。</p>	<p>予習:事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。復習:ロールプレイングの反省点などをあげ、自身の課題をまとめてください。</p>	4時間
第13回	<p>事例研究・ロールプレイング(5) キャリア教育</p> <p>事例の検討やロールプレイングなどを通して、保護者や地域関係者と良好な人間関係構築の重要性を理解しているかを確認します。</p>	<p>予習:事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。復習:ロールプレイングの反省点などをあげ、自身の課題をまとめてください。</p>	4時間
第14回	<p>教職履修カルテの記入と点検及び教師に必要な資質と能力についてのまとめと振り返り</p> <p>教職カルテの記入内容の最終確認を行い、履修カルテを完成させます。 教職課程全体を通して、各自が理想の教師像を明確にすることができたか、どのような実践的指導力が身についたかを考察します。</p>	<p>予習:教職カルテのすべての項目を記入しておいてください。教職課程全体を振り返り、4年間で達成された自身の課題を振り返っておいてください。復習:完成された履修カルテを読んで、自身の課題を整理してください。現代における教師をとりまく仕事や課題の複合性、多様性についての課題レポートを作成・提出してください。</p>	4時間

授業科目名	教職実践演習（中学校、高等学校）				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、将来教壇に立つ上で自身に不足していると思われる事項の知識・技能の補充を行うとともに、今後の教員生活に向けて自らが特に必要と感じる資質・能力について、実践的かつ発展的な課題に取り組むなかで資質・能力の深化を図る。さらに教育実習の経験をふまえ、それまでに履修した教職の諸科目における理論と実践の架橋を図り、教職科目と専門科目の知識・技術の統合を試みる。教職専門科目担当教員、教科教育・教科専門科目担当教員、および教育実習担当教員の緊密な連携・協力を得ながら、個々の学生の課題を明確にし、その克服を目指す授業を行っていく。また、大学と各教育委員会とで締結された協定を基にした密接な連携・協力体制の下、ゲスト・ティーチャーとして現職教員等の派遣を依頼して授業でのレクチャーを行ってもらうなど、より実践的な内容になるよう努めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

実践的指導力（生徒理解、学級運営、教科内容の指導力など）

目標：

教育実習の経験をもとに実際の教育現場で直面する諸問題について理解し、実践的な対応策を考えることができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP9. 役割理解・連携行動

学び続ける教師として自己を位置付け、自身自身の現時点での課題に向き合うことができる。

教職に就くものとしての資質を高め、教師としての使命感・責任感を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ デイバート、討論
- ・ シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題レポート	40%	： 教師をとりまく仕事や課題の複合性、多様性を適切に理解しているかを評価します。
授業時に取り組む課題	30%	： 様々な事例と自分の経験を突き合わせた省察が出来ているかなどを評価します。
教職カルテ	30%	： 自身の課題を具体的に把握し、それらへの向き合い方を見出すことができているかなどを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教職実践演習ワークブックレポートフォリオで教師力アップ（西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也著、ミネルヴァ書房（2013））
そのほか、適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 4限
場所： 西館 4階研究室
備考・注意事項： なにかあれば、気軽に研究室まで来てください。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとする目安の時間
第1回	<p>オリエンテーション：授業の進め方と評価、教職履修カルテの確認</p> <p>教職課程における教職実践演習の位置付けと、履修カルテを活用した振り返りと自己研鑽の方法について検討します。</p>	4時間
第2回	<p>教育実習の振り返り（1）模擬授業・現代における教育現場の諸問題と生徒観</p> <p>模擬授業を通して、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫できたか、成果と反省点について確認します。</p>	4時間
第3回	<p>教育実習の振り返り（2）模擬授業・教科における教科内容・題材・目標・評価・指導計画</p> <p>模擬授業を通して、学習指導案の教科内容・題材・目標・評価・指導計画が実際の授業で実践できたか、成果と反省点について確認します。</p>	4時間
第4回	<p>教育実習の振り返り（3）生徒指導について</p> <p>教育実習の振り返りを通して、実習中の生徒指導において、公平かつ受容的な態度、豊かな人間的交流、発達や心身の状況に応じた指導、信頼関係の構築、学級集団の把握、規律ある学級運営などができているかを確認します。</p>	4時間
第5回	<p>学校組織と教師の役割・校務分掌（1）分掌の実態とそれぞれの意義について</p> <p>グループ討論や事例の検討を通して、教員としての職責や義務、教員組織における自己の役割を自覚することの重要性を理解しているかを確認します。</p>	4時間
第6回	<p>学校組織と教師の役割・校務分掌（2）学校の「協働」について</p> <p>グループ討論や事例の検討を通して、「学校」という組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力した校務運営の重要性を理解しているかを確認します。</p>	4時間
第7回	<p>外部講師による講演・講義、中間評価、中間評価分析</p> <p>学校教育の現場で起こる諸問題について、外部講師の方に講義していただきます。 外部講師の方を交えて、教師に求められる資質について話し合います。</p>	4時間
第8回	<p>事例研究・ロールプレイング（1）事例の交流と発表準備</p> <p>事例の検討やロールプレイングなどを通して、現在の教育問題から、把握しておくべき点について学ぶ。</p>	4時間
第9回	<p>事例研究・ロールプレイング（2）発達障害を持つ生徒との関わりについて</p> <p>事例の検討やロールプレイングなどを通して、子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。</p>	4時間
第10回	<p>事例研究・ロールプレイング（3）いじめ・不登校の生徒への関わりについて</p>	4時間

	事例の検討やロールプレイングなどを通して、いじめ・不登校などの問題と学級経営に必要な個々の子どもの特性や状況に応じた対応を修得しているかを確認します。		
第11回	事例研究・ロールプレイング（４）保護者との関係と教師の対応について 事例の検討やロールプレイングなどを通して、保護者や地域の関係者と良好な人間関係構築の重要性を理解しているかを確認します。	予習：事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。復習：ロールプレイングの反省点などをあげ、自身の課題をまとめてください。	4時間
第12回	事例研究・ロールプレイング（５）キャリア教育 事例の検討やロールプレイングなどを通して、進路指導における学級担任の役割や実務、他の教職員との協力の在り方等を修得しているかを確認します。	予習：事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。復習：ロールプレイングの反省点などをあげ、自身の課題をまとめてください。	4時間
第13回	教職履修カルテの記入と点検 教職カルテの記入内容の最終確認を行い、履修カルテを完成させます。	予習：教職カルテのすべての項目を記入しておいてください。復習：完成された履修カルテを読んで、自身の課題を整理してください。	4時間
第14回	教師に必要な資質と能力についてのまとめと振り返り 教職課程全体を通して、各自が理想の教師像を明確にすることができたか、どのような実践的指導力が身についたかを考察する。	予習：教職課程全体を振り返り、4年間で達成された自身の課題を振り返っておいてください。復習：現代における教師をとりまく仕事や課題の複合性、多様性についての課題レポートを作成・提出してください。	4時間

授業科目名	介護体験				
担当教員名	小島大輔・石井理之				
学年・コース等	3年【経】・2年【芸】	開講時期	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（石井）（全14回）				

授業概要

高齢者介護および障がい者支援の基礎知識を習得し、わが国の障害者教育と障害者支援（福祉）の歴史と制度を含めた態勢について学ぶ。さらに少子高齢化の中でわが国が抱える諸問題についても考える。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）における事前学習、事後学習を行う。具体的には、演習の方法も一部取り入れた準備学習、実習中の指導助言、学びと課題を明確にするための事前学習をおこなう。さらに各グループごとの介護体験実習の成果、反省事項のプレゼンテーション発表を事後学習の一環として実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

教員として持つべき考え方や態度の修得。

目標：

他者の尊厳を尊重して共感的に接する態度を保つことができる。

汎用的な力

- 1 . DP9. 役割理解・連携行動

特別支援学校、施設での自ら学ぼうとする意欲と態度を持つ。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

実習日誌、まとめ

評価の基準

： 実習日誌、発表まとめの記述内容から、他者の尊厳を尊重して共感的に接する態度について評価する。

40%

実習への参加

： 特別支援学校、施設での自ら学ぼうとする意欲を評価する。

50%

期末レポート作成

： 実習で学んだことを通して、教員としての態度、意欲が涵養されているかを評価する。

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業に必要な資料を配布するとともに、適宜参考書を紹介する。

増田雅暢他 『よくわかる社会福祉施設』第4版 全国社会福祉協議会 2015
「HOW TO 介護」 大阪府社会福祉協議会

履修上の注意・備考・メッセージ

介護体験は、出席厳守。
学外実習のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 4限(小島) 金曜日 4限(石井)

場所： 西館4階研究室(小島) 南館2階研究室(石井)

備考・注意事項： 上記以外に質問などあるときはメールにて。Eメールには氏名と所属、学籍番号、「介護体験について」を必ず明記してください。講義の前後でも質問を受け付けます。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p>介護等体験についての概要理解</p> <p>介護等体験のテーマ・目標、概要、実習先について確認する。</p>	4時間
第2回	<p>特殊教育諸学校と体験学校の事前学習（特別支援学校の理解と介護体験に向けての学習）</p> <p>特別支援教育・学校の現状について学び、実習先の学校の詳細について確認する。</p>	4時間
第3回	<p>特殊教育諸学校での介護等体験（介護体験の実習1回目）</p> <p>特殊教育諸学校にて実習校の指導教員の指示に従って、第1日目の介護等実習に真摯に取り組む。</p>	4時間
第4回	<p>特殊教育諸学校での介護等体験（介護体験の実習2回目）</p> <p>特殊教育諸学校にて実習校の指導教員の指示に従って、第2日目の介護等実習に真摯に取り組む。</p>	4時間
第5回	<p>体験実習記録（体験実習の整理とまとめ）</p> <p>特殊教育諸学校での体験実習内容について整理し、体験の成果、課題、改善点をまとめる。</p>	4時間
第6回	<p>特別支援学校体験の反省、特別支援学校の事後学習、介護体験の振り返り</p> <p>特殊教育諸学校での実習の事後学習として、体験実習の振り返りを共有し、体験実習の反省を行う。</p>	4時間
第7回	<p>社会福祉施設の事前学習（社会福祉施設に向けての学習）</p> <p>社会福祉施設の現状について学び、実習先の施設の詳細について確認する。</p>	4時間
第8回	<p>社会福祉施設での介護等体験（社会福祉施設での介護等実習1回目）</p> <p>社会福祉施設にて施設の指導教員の指示に従って、第1日目の介護等実習に真摯に取り組む。</p>	4時間
第9回	<p>社会福祉施設での介護等体験（社会福祉施設での介護等実習2回目）</p> <p>社会福祉施設にて施設の指導教員の指示に従って、第2日目の介護等実習に真摯に取り組む。</p>	4時間
第10回	<p>社会福祉施設での介護等体験（社会福祉施設での介護等実習3回目）</p> <p>社会福祉施設にて施設の指導教員の指示に従って、第3日目の介護等実習に真摯に取り組む。</p>	4時間
第11回	<p>社会福祉施設での介護等体験（社会福祉施設での介護等実習4回目）</p> <p>社会福祉施設にて施設の指導教員の指示に従って、第4日目の介護等実習に真摯に取り組む。</p>	4時間
第12回	<p>社会福祉施設での介護等体験（社会福祉施設での介護等実習5回目）</p> <p>社会福祉施設にて施設の指導教員の指示に従って、第5日目の介護等実習に真摯に取り組む。</p>	4時間
第13回	<p>介護体験のまとめ（社会福祉施設での介護体験の振り返りとまとめ）</p> <p>社会福祉施設での体験実習内容について整理し、体験の成果、課題、改善点をまとめる。</p>	4時間
第14回	<p>事後学習（各班で社会福祉施設での体験の成果、課題、改善点の発表と相互理解）</p> <p>社会福祉施設での実習の事後学習として、社会福祉施設での体験の成果、課題、改善点をパワーポイント等で発表し相互理解を深める。</p>	4時間